

大阪府立大学 21世紀科学研究機構大阪検定客員研究員

平成25年度研究成果報告会

日時：平成26年3月29日（土）13：00～17：30

13：00～ 主催者挨拶

大阪府立大学理事・副学長兼21世紀科学研究機構長 辻 洋

13：10～ 研究発表（前半）

湯川 敏男 観川の面影を求めて …… 1

吉田 真治 社会人・大学生・専門学校生等の若年層による大阪の都市魅力の向上 …… 5

岩本 穣 訪ねて感じる、訪ねて知る 大阪の歴史 …… 9

[コメンテーターからコメント]

福田 昌弘 世界の「くいだおれ都市・大阪」を実現する観光戦略 …… 13

村田 幸雄 扁額で巡る大阪（大阪の扁額50選） …… 17

竹中 裕昭 適塾を生んだ大阪 その医蹟を巡る …… 21

高柳 淳一 大阪発 自転車で、いまどき天皇陵参拝。 …… 25

[コメンテーターからコメント]

14：55～ 休憩

15：10～ 研究発表（後半）

西本 広光 JR大阪環状線でめぐる大阪観光 …… 29

行俊 良雄 観光資源の宝庫、大阪の鉄道 …… 33

越智 賢一 生駒山系と歴史路の観光資源展開 …… 37

[コメンテーターからコメント]

山田 重昭 住吉大社周辺における観光まちづくり戦略 …… 41

中塚 義隆 来て見て体験！だいがくと ^{いか}のまち勝間千軒 …… 45

辻本 伊織 アベノの坂10選 無名坂に名前をつける …… 49

[コメンテーターからコメント]

コーディネーター：大阪府立大学 21世紀科学研究機構教授・観光産業戦略研究所所長 橋爪 紳也

コメンテーター：大阪観光局副局長 大川 達也

観光プランナー オダギリ サトシ

株式会社ジェイティービー 西日本国内商品事業部地域統括部長 高橋 広

16：40～17：30 懇親会

はじめに

「なにわなんでも大阪検定」も、2013年度で5回目となる試験を終えました。

検定試験を立ち上げる際、私たちは、「大阪を再発見する機会の提供」「大阪を知り愛する運動の推進」「大阪の都市ブランドの向上」「大阪を体験する機会の提供」という4項目の目的を設定しました。また他都市の検定とは趣向を違えて、検定の受験そのものが「楽しみ」となる「大阪らしい検定」を目指してきました。

受験者数は累計で19,202名、そのうち合格者は1級51名、2級2,032名、3級9,031名を数えるほどになりました。観光産業や金融業、また行政関係など、大阪に根ざした業界の団体受験も増加、関連するプログラムも年次を追って充実しつつあります。大阪に対する愛市精神を高めるうえで、一定の役割を担っている事業であると自負しています。

さて、「なにわなんでも大阪検定」では合格者向けの特典を多数、用意しています。そのひとつとして2013年度より、最難関である1級の合格者のなかから選抜を行い、私が所長を務める大阪府立大学21世紀科学研究機構・観光産業戦略研究所の客員研究員として迎え、1年間、独自に研究活動を行っていただくというプログラムを用意致しました。

1年間、大阪府立大学でゼミを実施、各員の問題意識のもとに大阪の地域文化を活かした広義のツーリズムについて、独自の研究を展開していただきました。本冊子は、参加いただいたメンバーの研究成果をとりまとめたものです。

専門家による調査研究ではありませんので、学術的な水準は十分ではないかもしれません。ただそれぞれの提案は、1級合格者の方らしく、大阪の歴史と文化を活かそうとする愛市精神に満ちたものばかりです。「なにわなんでも大阪検定」の成果物のひとつとして、評価いただければ幸いです。

大阪検定企画会議座長
大阪商工会議所都市再生委員会副委員長
大阪商工会議所ツーリズム振興委員会副委員長
大阪府立大学21世紀科学研究機構特別教授
大阪府立大学観光産業戦略研究所長

橋爪紳也

覗川の面影を訪ねて

湯川 敏男

【目的】

“水都”と称せられ縦横に河川が張り巡らされていた大阪であるが、現在、往年の美しい景観は失われ、人々が称賛した水辺の風景は遠ざかり、今は無い。これらの消えた河川の往年の状況と現状を調査し、今一度、リアルとバーチャルを駆使して再現し、再び水辺の景観を楽しみ、水都の歴史・風景や躍動感溢れた活気ある大阪を取り戻し、多くの人々が再び訪れ、臨場感をもって楽しく、判り易く大阪の歴史や地域の変遷を体感する手段を提供することを目的とする。

【内容】

今回は、実施事例の一つとして堂島の北側を東西に流れていた曾根崎川（通称「覗川」）とそこに架かっていた10の橋を取り上げ、川や橋の名残をリストアップし、往時の景観を再現し、散策の一助としたい。具体的には、覗川の成立から消滅までの歴史を遡り、川筋の変遷をたどり、現在どれ程、川にちなむものが残っているか橋を主体に調査し、橋の名残や橋名の継承状況を調査し、それらを活用し、現在は失われた川や橋の記憶で再現可能なものは構築し、往年の面影を再現する。

覗川の面影を再現する手段として、橋跡碑の整備、「覗川十橋めぐり」解説板の設置、AR（拡張現実）による覗川の景観等の再現、特に近松門左衛門の文楽の名作『曾根崎心中』や『心中天網島』などの道行きの出発点であり、地名「梅田」発祥の地としての梅田橋近辺については重点的に取り組み、「覗川十橋めぐり」解説板に加えて歴史地図、『浪華曾根崎図屏風「舟遊び図」』、「梅田橋」顕彰碑建立協賛者芳名板などを組み合わせた記念碑を設置し梅田橋顕彰の強化を実施する。

これら覗川の10橋を軸に周辺の名所・史跡とコラボした観光コースを作成する。

【結果（今後の考察含む）】

覗川の面影の再現、仕組み作りの実施には、行政、企業、個人の理解、賛同、多くの協力者、技術者を必要とし、今後の具体的な取組方法を如何に行うかが課題である。

また、覗川の10橋を中心に周辺の名所・史跡とコラボした観光コースの範囲・内容の設定、「覗川十橋めぐり」のガイドブックの作成など、まだまだ未実施事項がある。

今回は、覗川を対象としたが、大阪には、他にも多くの失われた河川や堀川があり、これらの河川についても、同等の調査を実施、顕彰し、景観の整備・再現の仕組みを構築し、魅力ある観光コースを設定したい。

1. はじめに（図1 埋め立てられた河川を参照）

大阪は“水都”と称せられ、河川が四通八達し、水運が経済を支え、その美しさが多くの絵図に残され、一大観光地として賑わった。しかし、世は陸運の時代となり、多くの河川が埋め立てられ、人々が水辺から遠ざかり日常から水の景観がなくなった。

この水辺の記憶を現在に再現し、多くの人々が再び訪れる大阪にするため、「水の都」大阪のリアルとバーチャルでの面影の再現を提案する。

今回、その実施事例案の一つとして、堂島の北を東西に流れていた曾根崎川（通称「蜆川」）の景観を取り上げる。

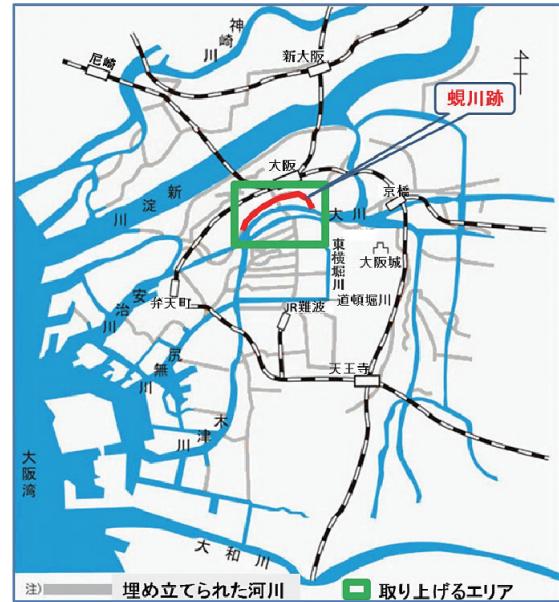


図1 埋め立てられた河川

2. 蜂川の変遷

蜆川が消滅して堂島が名ばかりの“島”になって久しい。蜆川を知るには、この地の重層的な歴史なしには語れない。まず、蜆川の発生から消滅までの歴史・変遷を時代順に眺めてみたい。

（1）蜆川以前（図2 大阪平野の地形変遷を参照）

約8千年前、気温が上昇し、縄文海進が始まり海面が現在より高くなり、大阪城がある上町台地の内側（東側）にも海水が浸入し河内湾となった。この湾には淀川や大和川が注いでおり、上流より土砂が流入し、河内湾は浅くなり周縁部から陸地化が始まり上町台地の北側にある海峡も狭くなり、河内湾は時代を追って淡水化が進み河内潟、河内湖となり、さらに陸地化が進み河内平野となった。

大阪湾（茅渟海）と河内湖の水の出入り口は隘路となり、たびたび河内平野は氾濫した。この状況を見かねた仁徳天皇は、水害を防ぐため「難波の堀江」を開削したと伝承されている。この堀江が現在の大川で、この大川の分流の一つが蜆川となった。

（2）蜆川成立（図3 蜂川の変遷を参照）

蜆川は、堂島川に架かる大江橋の少し上流から北へ分岐し、すぐ西向し、北に湾曲しながら東西に流れ、堂島大橋と船津橋の中間で堂島川に再合流する延長2.26キロメートルの川で、正式名称は曾根崎川であるが、上流部は梅田川、下流部は福島川とも称され北区と福島区に亘っていた。

旧淀川、旧大和川、平野川、長瀬川などの流れを集めた大川は、上流よりの大量の土砂による堆積のため中之島や堂島の中洲を形成、さらに成長し、蜆川に当たる部分は水の疎通が滞るほどになった。そこで江戸幕府は河村瑞賢に改修を命じ、左岸（南側）に堂島新地、右岸（北側）に曾根崎新地が開発され、梅田橋はじめ10橋が架けられ、藏屋敷群や遊所として大いに賑わった。

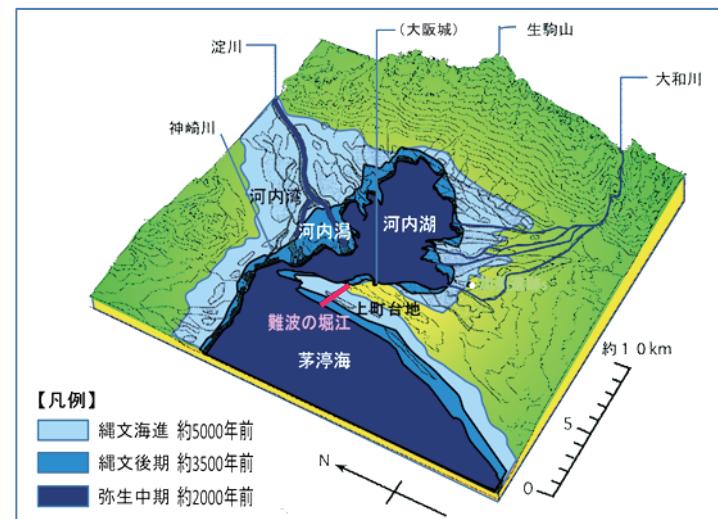


図2 大阪平野の地形変遷

明治期に入り、1872年（明治5年）の新橋一横浜間に引き続き1874年（明治7年）に現東海道本線（神戸一大阪）が開通し「梅田すてんしょ」（大阪駅）が作られた。市中との通運は、まだまだ水運が主体のため、大阪駅と市中河川とは、蜆川は梅田掘割と、堂島川は堂島掘割と、土佐堀川は中之島掘割とで結ばれ、大小さまざまな船が運航し繁栄した。

その後、1898年（明治31年）に現大阪環状線（当時は西成鉄道）、1905年（明治38年）に阪神電気鉄道本線が出入橋（翌年、梅田）まで、

1910年（明治43年）に阪急電鉄（当時は箕面有馬電気軌道）宝塚本線が梅田まで開通した。

梅田すてんしょ（JR大阪駅）、阪神梅田駅、阪急梅田駅も建て替えなどで移動し、地名としての「梅田」は本来の位置よりかなり北東に移動してしまった。

（3）蜆川消滅（図3 蜆川の変遷を参照）

1906年（明治39年）、山下重威が3代目大阪市長の時、この蜆川の埋め立て計画が持ち上がった。それは、衛生上の観点と市電南北線の橋梁費の節約を目的とするものであった。

その計画の最中の1909年（明治42年）7月31日未明、いわゆる「北の大火（天満焼け）」が発生し、天満から曾根崎、堂島、福島にかけての大阪市北部一帯は焦土と化し、蜆川に瓦礫の投棄が行われ始めた。8月11日に開かれた臨時大阪市会において緑橋から難波小橋までの埋め立てが可決され、梅田掘割から東側の蜆川（梅田川）部分は1912年（明治45年）までに瓦礫などで埋め立てられ川跡は宅地となった。その後、残る西側の蜆川（福島川）部分も1924年（大正13年）までにすべて埋め立てられ、こちらの川跡は道路となり、近代以降の河川埋め立ての嚆矢となった。

3. 蜆川の現状（表1 蜆川十橋名継承状況を参照）

在りし日の蜆川の面影が現在どのくらい残存しているか、架けられていた橋名を主体に検証する。橋の親柱の残存状況は皆無であるが、橋跡碑が3基〔蜆橋・桜橋・淨正橋〕、橋名を継承した場所として地点名標識が2



図3 蜆川の変遷

表1 蜆川十橋名継承状況(橋名は上流より下流に)					
No.	橋名	道路名	道路名(明治)	橋跡碑	橋名継承施設有無
1	難波小橋		堂島浜通(東西)		
2	蜆橋	御堂筋	梅田新道	○	梅新南
3	曾根崎橋			△	—
4	桜橋	四つ橋筋		○	地点名標識「桜橋」
5	助成橋				—
6	緑橋		梅田道(後)	△	—
7	梅田橋		梅田(西)道		梅田橋ビル
8	淨正橋	なにわ筋	淨正橋筋	○	淨正橋筋架道橋
9	汐津橋		汐津橋筋	△	汐津橋筋架道橋
10	堂島小橋	あみだ池筋	堂島小橋筋		堂島小橋筋架道橋

【橋跡碑欄の凡例】○: 現存する。△: 戰前にあった

地点〔桜橋・淨正橋〕、鉄道ガード（架道橋）名が3カ所〔淨正橋・汐津橋・堂島小橋〕、ビル名として「梅田橋ビル」の1カ所である。この他、金融機関の支店名として何カ所かが確認できる。

4. 蜆川の再現

これらの歴史・変遷を踏まえて観光地としての景観のリアルとバーチャルでの再現を志向する。

(1) 橋跡碑の整備

橋跡碑として現存するのは、前述の鷺橋、桜橋、浄正橋の3橋のみであるが、戦前存在していた曾根崎橋、緑橋、汐津橋の3橋の橋跡碑は復刻し、残る4橋は同等の橋跡碑を作成する。

(2) 「観川十橋めぐり」解説板の設置

各橋跡碑の近辺に、橋ごとに案内地図を兼ねた「観川十橋めぐり」解説板を作成し掲示する。このことにより観川に架橋されていた10橋を一体的なものとして認識することができる。

(3) ARによる観川の景観等の再現 (図4 梅田橋近辺でのARの実施例を参照)

「観川十橋めぐり」解説板に表示されているQRコードにスマートホーンをかざすと往時の観川の川筋、橋、景色などの景観、伝承話や文学作品の物語が再現されるAR(拡張現実)技術を用いた仕組みを構築する。

(4) 梅田橋顕彰の強化

梅田橋は、近松門左衛門の文楽の名作『曾根崎心中』や『心中天網島』の道行きの出発点で、地名「梅田」の発祥の地でもある。この地(NTTテレパーク堂島)に「観川十橋めぐり」解説板と歴史地図、『浪華曾根崎図屏風』図、「梅田橋」顕彰碑建立協賛者芳名板を組み合わせた記念碑を設置し、顕彰を強化する。さらに、現在ある親水設備に梅田橋の模型、ビルのシャッターに『曾根崎心中』の主人公のお初徳兵衛の姿絵があれば注目スポットとして成立する。



図4 梅田橋近辺でのARの実施例

5. 観川の観光 (図5を参照)

観川の近辺には「佐賀藩蔵屋敷跡」、「蛸の松」、「逆櫓乃松跡」、「莫大小会館」、「野田藤・藤庵跡」などの見どころが多くあり、これらの史跡と観川の10橋を一体化して巡る史跡探訪観光コースを設定し、魅力ある大阪をアピールする。

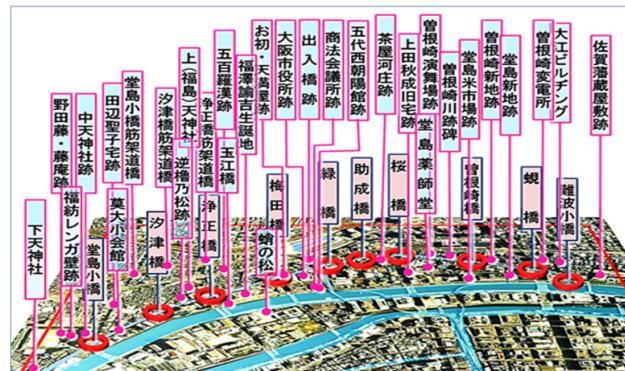


図5 観川十橋と周辺の見どころ

大阪は、町人の都として、自由な発想のもと、独自の文化が栄え、各種の考え方・文化・人々を受け入れ、先進の精神を引き継ぎ、それらが大阪の活力となり、次々とユニークな大阪発ブランド、企業、商売やアイデアを誕生させてきた。各種の橋跡、史跡、文化遺産、文学ゆかりの地を総合的に整理・構築・継承・再生し、個別に顕彰していたものを点から線、線から面へと複合的に構成するコースを、今回は観川を中心に提案したが、観川以外の他の失われた河川・堀川でも同様の史跡探訪観光コースを設定し、大阪の先人の活力の一端を感じ、大阪の元気を取り戻す一助としたい。

<参考文献>

- ・大阪の川 一都市河川の変遷一 財団法人大阪市土木技術協会 1997.3
- ・大阪の橋 大阪市における橋梁技術のあゆみ 大阪市土木技術協会 1995.10
- ・大阪駅の歴史 大阪ターミナルビル株式会社 駅史編集委員会 2003.4
- ・大阪市の歴史 大阪市史編纂所 創元社 1999.4
- ・大阪遺跡 -出土品・遺構は語るなにわ発掘物語- 大阪市文化財協会 創元社 2008.3
- ・新修大阪市史 第6巻 近代2 新修大阪市史編纂委員会 大阪市 1994.12
- ・おおさか水辺の風景 -古写真は語る- 大阪城天守閣特別事業委員会 2006.3
- ・日本の古典 -グラフィック版- 12 心中天網島 世界文化社 1981
- ・福島てんこもり -わが町まるごとガイド- No.17 福島てんこもり 2010.7
- ・北区小さな旅ぶっく -まちと歴史を楽しむ8コース- 大阪市北区役所区民企画担当 2010.3
- ・歴史の散歩道 -大阪市史跡連絡遊歩道- 大阪市土木技術協会 1991.10

社会人・大学生・専門学校生等の若年層による大阪の都市魅力の向上

吉田 真治

【目的】

活動のきっかけは、

- 大阪には魅力がたくさん。知れば知るほどもっと好きに！
- 学生、若者は、就職先も、ネットワークも広域に。大阪ファンになれば大阪の最強の P R マンにと思ったことがある。

ところが、学生の多くはメジャーなところしかいったことがない。たくさんある大阪の魅力を若者・学生により深く沢山知ってもらうためにはどうすればいいか。こうした問題意識のもと、若者たちのいまの考え方をしっかりとふまえたうえで、これからどう若者を大阪の魅力づくりに巻き込んでいくか。実際の活動に基づいて、今後若者を巻き込むための手法を検討していきたい。

【内容】

<学生・専門学校生、留学生、若者の大阪に対する意識・行動>

- ・学生、留学生は、いわゆる「観光名所」(USJ、道頓堀等)の回答が圧倒的。
- ・しかし、20代の若者からは、観光名所以外の様々な魅力への回答が多くかった
⇒まずは若者に大阪の様々な魅力を知ってもらう。それを学生や留学生に広げる取り組みができないか

<若者とともに大阪の魅力をめぐるフィールドワーク>

- ・若い職員のみなさんにまちあるき、山歩きの企画をお願い。あわせて勉強会や交流会の開催も
- ①大阪検定勉強会（約30～40人）
②大阪あちこちハイキング＆ラン（約40～70人）
③大阪市内ディープ・ラン（約20人）

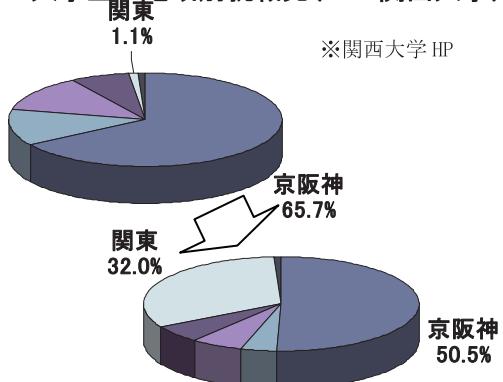
【結果（今後の考察）】

- 若者を中心としたやまあるき、まちあるきに学生のみなさんに一緒に参加してもらう仕組みづくりを
- 来年度は、大阪商工会議所、大学、電鉄会社、メディアなどのみなさんとぜひご一緒にモデルワークを組み、若者・学生が大阪を知り大阪のファンになるムーブメントを広げていきたい

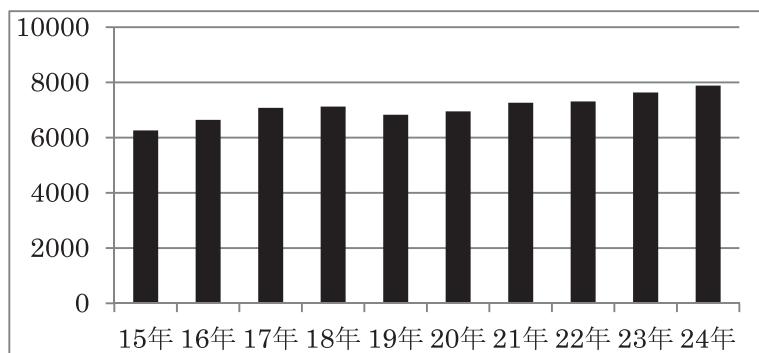
【活動のきっかけ】

- 大阪には魅力がたくさん。知れば知るほどもっと好きに！
- 学生、留学生、若者は、就職先もネットワークも広域。大阪ファンになれば大阪の最強のPRマンに
- ところが特に学生・留学生、若者の多くはメジャーなところしかいったことがない
- たくさんある大阪の魅力を学生、若者により一層深く沢山知ってもらうためにはどうすればいいか。
- こうした問題意識のもと、学生・若者たちが大阪に対していくどのような印象をもっているかを把握したうえで、大阪の魅力のPRにどう参加してもらったらいいのか。
- 若者を対象とする実験的な取り組みを通じて、今後若者を巻き込むための手法を検討していきたい。

大学生の地域別就職先(H23 関西大学)



大阪の留学生数(H24)



【学生・専門学校生、留学生、若者の大阪に対する意識・行動】

(1) 大阪で行きたいところ

- ・学生、留学生は、いわゆる「観光名所」の回答が圧倒的。
 - ・しかし、20代の若者からは、観光名所以外の様々な魅力への回答が多くかった
- ⇒まずは若者に大阪の様々な魅力を知ってもらう。それを学生や留学生に広げる取り組みができるないか

学生・専門学校生	留学生	若者
①USJ	①道頓堀	①おしゃれでおいしい店
②通天閣＆新世界	②海遊館	②水辺・中之島
③海遊館	③通天閣＆新世界	③自然・山
④あべのハルカス	④日本橋	④通天閣＆新世界
⑤大阪城	⑤食べ放題	⑤工場

(2) まちあるきや大阪を知ることへの関心（とくに学生・留学生）

- ・学生もまちあるきにはいきたいがなかなか時間がないこともあって、機会に恵まれていない
- ・一方、若者は大阪について深く知りたいという希望をもっている。

学生・専門学校生、留学生	若者
<ul style="list-style-type: none"> ・機会があればまちあるきをしてみたいけどなかなかいきたいっていう機会がない ・時間がない、お金がない、バイトが忙しい ・これぞ大阪ってところもまだいったことがない 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪の歴史、時代背景を知りたい ・大阪は意外と〇〇っていうのを知りたい

【若者とともに大阪の魅力をめぐるフィールドワーク】

若い職員のみなさんにまちあるき、山歩きの企画をお願い。あわせて勉強会や交流会の開催も

①大阪検定勉強会（約30～40人）

- ・大阪検定1級2級合格者でまちあるきプラン。あるいはウォークラリーに便乗。
- ・その後、3級合格者にまちあるきの企画をお願いし、あわせて模擬問題の作成も
例：中之島、堺うまいものたべあるき
- ・1級の辻本さん、行俊さんのおかげでよりレベルの高い2級受験者向け企画にも参加
例：天王寺七坂、道頓堀

②大阪あちこちハイキング＆ラン（約40～70人）

- ・大阪の山でハイキング＆トレイルラン＆宴会。企画は3級合格者や市町村の方等にお願い
例：金剛山樹氷、河内長野岩湧山すすき、岸和田葛城山ブナ林、阪南大福山修験道

③大阪市内ディープ・ラン（約20人）

- ・大阪市内の観光・歴史等のスポットを走りながらみてまわる＆ディープなエリアで宴会。
例：通天閣～住吉大社～飛田新地、弁天町～天保山～川口教会～大正



【今後の方針】

目標：大阪を知る、大阪を好きになる、大阪の魅力を発信する

大阪検定をベースに、若者から学生・留学生へとその輪、循環を広げていきたい！！

そのために

- これまで若者が中心となった山あるき、まちあるきの機会づくり
- 来年度は、大阪商工会議所、大学、電鉄会社、メディアなどのみなさんと一緒にモデルワークを
- その中で、若者が企画をつくり、学生に参加してもらう。
- それを機会に、若者が、そして学生、留学生が、大阪を知り、大阪のファンになる、
そんなムーブメントを大阪検定から広げていきたい

（モデルワーク案）

- ★ぜひ若者、それも女子に2級合格を果たしてもらい、大阪検定・山ガール勉強会を！
- ★山歩き＋勉強会＋地元の名物料理で交流会を開催

例えば

- 交野・岩めぐりプロジェクト：天孫降臨の地といわれる交野の岩めぐり
ぜひ、京阪電車の方にも企画に参画いただければ
- 葛城修験の道プロジェクト：世界遺産・熊野古道に匹敵する巡礼の道・葛城修験の道
ぜひ、南海や近鉄の方にも企画に参画お願いします

<MEMO>

訪ねて感じる、訪ねて知る 大阪の歴史

岩本 穢

【目的】

大阪は多様な歴史が分厚く重層する土地であるにもかかわらず、ステレオタイプで偏ったイメージが強くなり過ぎている。大阪人自身もそのイメージを受け入れてしまい、自らステレオタイプな大阪イメージを増幅させている面もある。

大阪の豊かな歴史を感じ、知るきっかけを作ることで、偏った大阪のイメージを変えしていくための第一歩とする。

【内容】

歴史を感じるきっかけ作りのため、大阪市域エリアと大阪府下（大阪市域以外）エリアについて、それぞれのアプローチの仕方を考える。

（1）大阪市域エリア

都市としての大阪は上町台地から海に向かって発展してきた。そのルートを辿ることによって、大阪の歴史の厚みを感じるきっかけとする。

（2）大阪府下エリア（大阪市域以外）

大阪の歴史については、現在の大坂市域を中心に考えがちであるが、府下全体で眺めてみると、別の大阪の姿も見えてくる。府下に残された目に見える歴史的資産を訪ねることで、大阪府下の多様な歴史を感じる契機とする。

【結果（今後の考察含む）】

（1）大阪市域エリア

現在の大坂の街は御堂筋などの南北軸がメインとなっているので、南北で考えてしまいがちであるが、上町台地から海に向かって発展してきた街の歴史を踏まえて、東西の軸で歴史横断的に大阪を眺めてみる。大阪市中心部は比較的コンパクトで、上町台地を除けば平坦な地形なので、歩きながら街を知ることが可能であり、上町台地から西に向かい歴史を辿るモデル・ルートを設定する。

（2）大阪府下エリア（大阪市域以外）

歴史を感じることができるものの（歴史資産）については、目に見える分かりやすさという観点から、国宝・重要文化財に指定されている建造物に着目した。これらは文化財としての価値を持つものであるが、観光の対象になり得るものとして考えたい。大阪府には国宝・重要文化財の建造物は 178 棟（79 スポット）存在し、京都府の 374 棟、奈良県の 248 棟には及ばないが、東京都の 128 棟の 1.4 倍に達する。

これらスポットの中から大阪歴史資産を設定し、そこをめぐることで、大阪市域エリアにとどまらない、摂津、河内、和泉の歴史への関心のきっかけとする。

1.大阪のイメージ

大阪は古代から交通の要衝として栄え、衰退した時代はあっても復活を繰り返す重層的な歴史を持つ土地である。

堺市による2012年（平成24年）の調査では、堺市は歴史・伝統のある都市かという問い合わせに対して、肯定的回答（「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」）は、86.1%（大阪府民対象）、82.2%（東京都民対象）に達し、歴史ある都市として堺市は認識されている。ところが、大阪府が2007年（平成19年）に実施した大阪府民を対象とした調査では、大阪は歴史・伝統が感じられるかという質問に対しての肯定的回答（「非常に思う」及び「やや思う」）は、34.5%に過ぎず、「大阪」が歴史のある土地として認識されているとは言えない。堺であれば歴史があると認識しているが、大阪とくとく歴史があるとは思われていないという奇妙な現象が生じているのである。

様々な要因があると考えられるが、理由の一つとして、大阪についてのステレオタイプなイメージ（コテコテ、道頓堀でダイブする阪神タイガースファン、おばちゃんなど）がメディアやネットを通じて一面的に強調、流布され過ぎてしまい、歴史が積み重なる土地という事実が隅に追いやられてしまったためだと考えられないだろうか。

ステレオタイプな大阪イメージから脱却し、大阪の多様な面を打ち出し、より魅力を高めるためには、まずは大阪人自身が足元にある豊かな歴史にあらためて気付くきっかけ作りが必要ではないだろうか。

2.アプローチ

きっかけ作りのための手段については、大阪市域エリアと大阪府下エリア（大阪市域以外）に分けて、それぞれのエリアごとのアプローチを考えた。

（1）大阪市域エリア

大阪のまちは、上町台地から海に向かって街が発展する歴史を辿ってきた。大阪市中心部は比較的コンパクトで、上町台地以外は平坦な地形であるので、歩きながら街の歴史を偲ぶことが可能である。大阪タイム・トラベルのため、上町台地から西に向かう2つのモデル・ルートを設定してみた。ルートとして認知してもらうためには、サインの設置等も必要である。

八軒家浜～野田ルート

八軒家浜→東町奉行所跡→大阪城→坐摩神社行宮→高麗橋→道修町→平野町
→京町堀→鞠公園→昭和橋・端建藏橋・船津橋→中央卸売市場→春日神社→野田

交通の要衝であった八軒家浜を基点に、古代にも繋がる坐摩神社行宮を経て、近世大阪の中心である船場を抜け、落ち着いた雰囲気の京町堀と鞠公園を通って、中之島ウエストゲートから江戸時代に藤の名所として知られた野田に至る。



道修町（大阪市中央区）

難波宮跡～千鳥橋ルート

難波宮跡→寺町→熊野街道→空堀商店街→周防町→アメリカ村→堀江→和光寺
→千代崎橋→九条→安治川隧道→西九条→船奉行所跡→千鳥橋（旧正連寺川）

難波宮跡をスタートし、寺町の北縁、熊野街道を横切り、若者の街であるがそれぞれ雰囲気の異なるアメリカ村・堀江を抜け、かつて「西の心斎橋」とも呼ばれた九条を経て、安治川の底をくぐり、これから生まれ変わろうとする旧正連寺川に至る。



和光寺（大阪市西区）

（2）大阪府下エリア（大阪市域以外）

国宝・重要文化財に指定されている建造物を擁するスポットは、北摂に 11 箇所、河内に 22 箇所、泉州に 30 箇所存在する。泉州、南河内に多く存在し、市町村別では堺市が 10 箇所で、河内長野市が 8 箇所で続いた。

これらの中から、非公開のものを除き、時代の古い建造物（鎌倉時代以前）が存在するスポットを中心としながら、3 エリアのバランスも考慮しつつ、「大阪歴史資産めぐり三十六私撰」として考えてみた。

北摂エリア 6 スポット

水無瀬神宮（島本町）	客殿は豊臣秀吉の寄進
普門寺（高槻市）	將軍足利義栄が滞在、普門寺城とも呼ばれた
旧西尾家住宅（吹田市）	都市近郊の大型近代和風建築。貴志康一とのゆかりも
五社神社（池田市）	背後の鉢塚古墳の石室内に石造十三重塔が建つ
八坂神社（池田市）	本殿は桃山時代の特色を持つ
久安寺（池田市）	725 年（神亀 2 年）に行基により開創

河内エリア 13 スポット

交野天神社（枚方市）	繼体天皇樟葉宮跡伝承地
片埜神社（枚方市）	豊臣秀頼が本殿を復興
旧鴻池新田会所（東大阪市）	鴻池新田管理のため 1707 年（宝永 4）に建設
葛井寺（藤井寺市）	豊臣秀頼が四脚門を寄進
叡福寺（太子町）	聖徳太子の廟を守護するめ推古天皇が建立、豊臣秀頼が聖靈殿再興
旧杉山家住宅（富田林市）	富田林寺内町で最も古い家屋
竜泉寺（富田林市）	蘇我馬子が 6 世紀に創建したと伝わる
錦織神社（富田林市）	現社殿は 1363 年（正平 18 年）の創建と伝わる
建水分神社（千早赤阪村）	本殿は中殿と左右両殿を渡廊で連結する全国唯一の様式
觀心寺（河内長野市）	南朝の後村上天皇の行在所で、檜尾陵がある。楠正成の首塚
金剛寺（河内長野市）	後村上天皇の行在所で天野行宮とも呼ばれた

鳥帽子形八幡神社（河内長野市）	鳥帽子形山には楠木七城の一つの鳥帽子形城の跡も残る
岩湧寺（河内長野市）	修験道場として栄えた

泉州エリア 17 スポット

山口家住宅（堺市）	全国でも数少ない江戸初期の町家のひとつ
南宗寺（堺市）	1557年（弘治3年）三好長慶が創建。徳川家康の墓が存在
大安寺（堺市）	本堂は納屋助左衛門の旧宅を移築したという説がある
桜井神社（堺市）	拝殿は中央に馬道と呼ばれる通路を持つ割拝殿型式
多治速比売神社（堺市）	本殿は16世紀に再建。安土桃山時代の建築様式を先取り
法道寺（堺市）	7世紀に開基されたと伝わる。食堂は鎌倉時代後期に建立
泉穴師神社（泉大津市）	1273年（文永10年）建立の摂社住吉神社本殿は府内最古の神社本殿
聖神社（和泉市）	天武天皇により674年（白鳳3年）建立
泉井上神社（和泉市）	豊臣秀頼が境内社和泉五社総社本殿を建立
積川神社（岸和田市）	豊臣秀頼が本殿を再建
大威徳寺（岸和田市）	紅葉の名所・牛滝山にある。多宝塔は1515年（永正12年）に建立
願泉寺（貝塚市）	貝塚寺内町に位置する
孝恩寺（貝塚市）	観音堂は釘を用いず建てられ「釘無堂」と呼ばれる
来迎寺（熊取町）	創建年代は明らかでないが、本堂は鎌倉時代の建物
中家住宅（熊取町）	江戸時代初期の豪農の住宅
慈眼院（泉佐野市）	673年（天武2年）天武天皇の勅願寺として創建。多宝塔は日本三名塔
意賀美神社（泉佐野市）	1442年（嘉吉2年）建立の本殿は春日造りでは大阪府内で最古



旧西尾家住宅（吹田市）



観心寺（河内長野市）



桜井神社（堺市）

（3）これから

わかりやすい歴史的資産として、今回は国宝・重要文財指定の建造物に限って考えてみたが、特別史跡・史跡、城跡等もめぐるべき歴史資産の中に含めて今後は拡大してみたい。

今回提案した大阪歴史資産は全くの私撰に過ぎない。これからの展開としては、例えばこの「三十六私撰」をベースとして、大阪ミュージアムあるいは大阪観光局のウェブ・サイトを活用して、定期的に「総選挙」を行うことで、スポットのランキング化や、余り気付かれていないスポットの歴史資産への新たな「メンバー入り」などのブラッシュアップをして、多くの人に認められる本当の意味での大阪の歴史的資産集とすることが可能ではないだろうか。

世界の「くいだおれ都市・大阪」を実現する観光戦略

福田 昌弘

【目的】

人口減少社会に突入した我が国において成長を継続していくためには「集客観光」がキーポイントになる。我が国を訪れる外国人数は平成24年で世界33位、トップのフランスの10分の1程度であり、まだまだ拡大の余地が大きい。その訪日外国人の一番の期待は「食事」であり、「くいだおれのまち」といわれる大阪はこの点で大きなポテンシャルがあると考えられる。そこで、大阪の「食」の魅力について現状や内外の評価を把握したうえで、世界的な「くいだおれ都市」として内外から人を集客する活気あふれる大阪にするための「観光戦略」を検討し、具体的提言を行うことを目的とする。

【内容】

大阪は江戸時代から「くいだおれ」の地と称され、本格的な「料亭」や「割烹」の発祥地で名物料理も多数ありながら、ミシュランガイドや世界のグルメ都市ランキングでは必ずしも世界的な食の都市という評価を得ていない。そこで、在関西総領事館の皆さんや大阪府・神奈川県職員の協力を得て、大阪の「食」に関するアンケートを実施し、各国や国内での大阪の「食」に関する意識を把握するとともに、現地調査や関係者ヒアリング、参考文献の調査等を行い、どうすれば大阪が世界的な「くいだおれの都市」となれるのか、その方策を検討した。

【結果（今後の考察含む）】

アンケート等からは大阪が世界的な食の都市との認識は大阪在住者以外は希薄であること、大阪の食の強みは「なんでも・うまくて・コストパフォーマンスがよい」ところであること、「たこ焼き・お好み焼き」の知名度は抜群だが、大阪伝統の料理や大阪食材の料理は知られていないこと、「なべ料理」は外国人や大阪府外で意外と高い評価を得ていること、外国人は何といつても多言語表記を切望していること、また急増しているイスラム教徒への対応の必要性などがわかった。これらを踏まえて、大阪が世界の「くいだおれ都市」としてにぎわうために以下の「10大提言」を提案する。

- ① 「くいだおれ・OSAKA」で海外にも発信！ ② 戰略的に「大阪の食文化」を売れ！
- ③ 「なべ王国・大阪」を打ち出せ！ ④ 個性豊かな「食のエリア」を発信せよ！
- ⑤ 大阪産料理を売り出せ！ ⑥ 「水辺」と「歴史」を生かす！ ⑦ いつでも「食」を楽しめる「食祭都市」に！ ⑧ 世界標準の環境整備と情報発信 ⑨ くいだおれ人材の育成（食育のススメ）⑩ 関西全体で「世界NO1の美食ゾーン」に

「世界のくいだおれ都市・大阪」を実現する観光戦略 大阪検定客員研究員 福田昌弘

【目的】

- * 人口減少社会に突入した我が国において成長を継続していくためには「集客観光」がキーポイント。
- * 我が国を訪れる外国人数はフランスの10分の1程度であり、まだまだ拡大の余地が大きい。
- * 訪日外国人の一番の期待は「食事」であり、「くいだおれのまち」といわれる大阪はこの点で大きな可能性があるのではないか。
- * そこで、大阪の「食」の魅力について現状や内外の評価を把握したうえで、世界的な「くいだおれ都市」として内外から人を集めする活気あふれる大阪を実現するための「観光戦略」を検討し具体的な提言を行うことを目的とする。

1

1. なぜ今「食」による観光戦略か

* 人口減少社会の進展 (国立社会保障・人口問題研究所/出生・死亡中位)

・2010年(平成22年)から50年で日本人口は4,000万人以上減少の見込み

* 成長継続のカギは「観光集客」、とりわけ「訪日外国人数」の増

・2012年(平成24年)日本政府観光局調査では各国の来訪外国人数は1位フランス8,302万人…23位韓国1,114万人…33位日本836万人
・2013年(平成25年)速報値では1,036万4千人(日本政府観光局)に増加し3.3兆円の経済効果、30万人の雇用があったと推計される(観光庁)

* 訪日外国人観光客の最大の関心は「日本の食事」

・観光客が訪日前に期待したことは「食事」が1位(62.5%)

「食事」は2009年に初めて1位(58.5%)となり、2010年は一層増加
(日本政府観光局 訪日外客訪問地調査2010)

・さらに、2013年(平成25年)12月「和食」が世界無形文化遺産に

2

2. 大阪の「食」のポテンシャルについての考察(1)

* 大阪は「くいだおれ」の地?

- ・都乃錦『元禄曾我物語』1702年(元禄15年)では「京は着て果、大阪は喰て果るとかや」の記述
- ・松葉軒東井『譬喻尽』1787年(天明7年)にも「京は着て倒れ、大阪は喰ひ倒れ 塚は建倒れ」
- ・一方、江戸末期安政年間、大坂西町奉行・久須美祐雋『浪花の風』には「京の着倒れ、江戸の食ひ倒れといふ如く、浪花の地も、京師と同様に衣類を殊に貯ふる風俗なり」との記述も
- ・1949年(昭和24年)道頓堀に「くいだおれ」が創業し、その後「くいだおれ」の呼称が浸透したといわれる



* 料亭、割烹の発祥も大阪から

- ・1600年後半に本格料亭の元祖 天王寺「浮瀬」が誕生
- ・飲み干せば記帳した巨大鮑の貝杯(一升弱)で有名に
- ・1924年(大正13年)に大阪新町に「浜作」が誕生
- ・カウンター割烹の発祥 → 東京、京都へ広がる



3. 食のアンケートから見た大阪(1)

- * そこで、在関西総領事館の皆さんに「大阪の食に関するアンケート」を実施
同じ内容で「大阪府職員」「神奈川県職員」に同時実施(2013.7)し、大阪の食の強みと弱みを調査した。(いずれも初の試み)

<アンケートI> 在関西総領事館員 14ヶ国・77人(*男36人、女40人)
*性別記載なし1 大阪在住5年以上28人、5年未満48人

- ・韓国23
- ・中国・モンゴル9 (中国5、モンゴル4)
- ・その他アジア27 (タイ7、インドネシア11、フィリピン8、パキスタン1)
- ・欧米等18 (アメリカ5、ドイツ2、イタリア2、オランダ3、ロシア3
オーストラリア2、パナマ1)

<アンケートII> 大阪府・神奈川県職員 69人(男40人、女29人)
大阪府職員47人(男24人、女23人 大阪検定受験者多数)
神奈川県職員22人(男16人、女6人 大阪在住経験2人のみ)

→ 概要は以下のとおり。(アンケート内容及び結果詳細は別資料参照)

5

3. 食のアンケートから見た大阪(2)

* 大阪を「世界的な食の都市」と思うか

・総領事館で65%、大阪府で57%、神奈川県で14% (否定55%)

・肯定の「理由」としては

<総領事館>

- ①コストパフォーマンスが高い
- ②料理の味がおいしい
- ③昔から食い倒れのまちといわれている

<大阪府>

- ①料理の味がおいしい
- ②コストパフォーマンスが高い
- ③エリアごとに個性的な魅力

* 大阪で食べたもので好きなもの(好きなもの順に3つ)

<総領事館> ①すし107P ②ラーメン88P ③焼肉80P

<大阪府> ①お好み焼き107P ②うどん45P ③たこ焼き41P

<神奈川県> ①たこ焼き46P ②串カツ40P ③お好み焼き36P

・総領事館はどの地域でも「すし」が1位、「ラーメン」はその他アジアで人気

「お好み焼き」は4位(インドネシアは0)、「たこ焼き」は6位

・「焼肉」は韓国よりも「その他アジア」や「欧米等」で人気

・大阪では「お好み焼き」がダントツ、神奈川は「串カツ」も人気

6

3. 食のアンケートから見た大阪(3)

* 大阪の名物料理で知っているもの、すすめたいもの（×知らないもの）

<総領事館>

- ・知っているもの（× はりはり鍋、関東煮、大阪産食材）
①たこ焼き ②お好み焼き ③焼肉 ④しゃぶしゃぶ ⑤すき焼き

・自國の人にすすめたいもの

- ①お好み焼き ②たこ焼き ③しゃぶしゃぶ ④焼肉 ⑤すき焼き

<大阪府>

・知っているもの（× 河内鴨）

- ①お好み焼き ①たこ焼き ③串カツ ③水ナス ⑤大阪ずし

・外国人にすすめたいもの

- ①お好み焼き ②たこ焼き ③串カツ ④カウンター割烹 ⑤きつねうどん

<神奈川県>

・知っているもの（× 水ナス以外の大阪産食材、カウンター割烹）

- ①お好み焼き ①たこ焼き ③串カツ ④てっちり ⑤きつねうどん

・外国人にすすめたいもの

- ①たこ焼き ②お好み焼き ③串カツ ④きつねうどん

- ⑤てっちり、しゃぶしゃぶ、すき焼き

7

3. 食のアンケートから見た大阪(4)

* 大阪の食のエリア、施設で知っているもの、すすめたいもの（×知らないもの）

<総領事館>

- ・知っているもの（×あべのハルカス、大正、福島など）
①ミナミ ②鶴橋・生野 ③グランフロント ④天神橋筋商店街 ⑤新世界
⑤コナモンミュージアム

・自國の人にすすめたいもの

- ①ミナミ ②鶴橋・生野 ③コナモンミュージアム ④グランフロント ⑤新世界

<大阪府>

・知っているもの

- ①鶴橋・生野 ②新世界 ③法善寺横丁 ④北新地・ミナミ・天神橋筋商店街

・外国人にすすめたいもの

- ①法善寺横丁 ②新世界 ③ミナミ ④黒門市場 ⑤インスタントラーメン記念館

<神奈川県>

・知っているもの（×福島、北浜テラス、中央市場、あべのハルカスなど）

- ①新世界 ①ミナミ ③法善寺横丁 ④北新地・鶴橋・生野

・外国人にすすめたいもの

- ①新世界 ②ミナミ ③鶴橋・生野 ④北新地 ⑤法善寺横丁・天神橋筋商店街

8

3. 食のアンケートから見た大阪(5)

* 食の魅力で海外から集客するための有効な取り組み

<総領事館>

- ①公的な多言語ガイドブック ②多言語表記等利用しやすさ
③夜景・水都を楽しめる水辺レストラン ④大阪城や歴史的建物の活用
⑤いきせん料理などのエンタメ料理店

<大阪府>

- ①多言語表記等利用しやすさ ②食のコンシェルジュ ③大阪城や歴史的建物の活用
④公的な多言語ガイドブック ⑤夜景・水都を楽しめる水辺レストラン

<神奈川県>

- ①公的な多言語ガイドブック ①食のコンシェルジュ ③多言語表記等利用しやすさ
③大阪城や歴史的建物の活用 ⑤パレインベント・大阪食材の料理

* 大阪での食事の適当な価格(総領事館平均)

- ・欧米等はやや高いが、平均するとランチは約1000円、ディナーは約3000円
※参考 (大阪 ランチ1100円、ディナー3900円)
(神奈川 ランチ1000円、ディナー3300円)

9

3. 食のアンケートから見た大阪(総括)

* 大阪の「世界的な食の都市」としての評価は「内弁慶」

* 大阪の「食」の強みは…【なんでも】【うまく】【コストパフォーマンス】

「多様性」、だし文化に支えられた「うまい」、高級料理から大衆料理までコストパフォーマンスの高さ

* 大阪「たこ焼き」「お好み焼き」が浸透(しそぎ?)

大阪の上質な食文化、大阪産食材の魅力、法善寺横丁などの情緒、高さ日本一のハルカスなどの対外浸透はいまひとつ

* 大阪の「鍋もの」は府職員より外の評価が高い

* 各国総領事館員の共通の好物は「すし」、「ラーメン」

「大阪名物」ではないが「食」の魅力として欠かせない

* 在阪外国人が一番求めることは「多言語による情報提供」

* イスラム圏は「ハラール認証」の拡充を強く要請(以下ヒアリング概要) 10

3. 食のアンケートから見た大阪(インドネシア総領事館ヒヤリング)

* インドネシアは国民の9割近くがイスラム教徒。食べ物も「ハラール」(イスラム法において合法なもの)であることが必須。

* 「お好み焼き」、「たこ焼き」を食べるのはソースにアルコール分が含まれていないか不安なことや、豚を調理した鉄板でお好み焼きを焼くことなどが理由。

* 魚貝類は原則ハラールで、「すし」は基本的にOKだが、回転ずしでは豚トロも使われていて、そういう店はダメ。フグは魚だが「毒」が怖くて食べない。

* 「そば」はそば粉からそのままつくられるので安全で人気。「うどん」も人気だが小麦粉からうどんを作る際の動物性油の使用が気になる。

* ハラール認証で「焼肉」や「鍋」、「お好み焼き」なども安心して食べられる。

→急増するインドネシア、マレーシアからの来日客取り込みには

「ハラール認証」の拡大と「安心情報」の発信が急務

(2012年インドネシア・マレーシア訪日客数約24万人・うち大阪約7万人) 11

4. その他の研究活動

* 大阪商工会議所でのヒヤリング実施(6月)

・大阪食彩ブランドプロジェクトチーム報告書について

・「食の都・大阪」推進会議の活動について

「食の都・大阪スタイル宣言」「食の都・大阪グランプリ」

* 大阪府環境農林水産部でのヒアリングの実施(8月)

・「大阪産」食材の活用と課題について

・「食博覧会」の開催状況と毎年開催の可能性について

* 現地調査の実施(5月～12月)

北極星(オムライス)、たこ焼きミュージアム、ふぐ博物館、食博、中央卸売市場北船場バル、カタシモワニナー、ウメピーフ・犬鳴ボーク、鶴橋・生野コリアンタウン、なにわ伝統野菜の料理、河内鴨料理、大阪産居酒屋、島之内ワニナリーフ田尻漁港漁業体験と海鮮バーベキュー、北浜テラス、昭和町長屋レストラン大正リトル沖縄、新世界串カツ、魚すき、グランフロント大阪、あべのハルカス法善寺横丁、ミシュラン☆レストラン、カウンター割烹体験……

* その他関連シンポジウムへの参加、参考文献による調査等を実施

12

5. 提言にあたって～「食」が地域の観光資源となる条件

- ①他地域にない「強み」があること(例 北海道「かに」、大間「まぐろ」…)
 - ・大阪は圧倒的な地域食材はない
 - ・また、京都、東京との棲み分けが必要
 - ⇒そこで、【なんでも】【うまくて】【コスパよし】の強みや「大阪名物料理」「個性的な食空間」、「独自の食文化」などを売りにすべき
- ②ストーリー性があること(例 下関フグ、佐世保バーガー…)
 - ・「くいだおれ」の伝統、大阪発料理の由来、カウンター割烹発祥の地や「法善寺横丁」「お初天神」などの物語性を打ち出すべき
- ③地域住民の共感があること (例 讃岐うどん、喜多方ラーメン…)
 - ・大阪人自身の自覚や誇りを高めること、そのために「食育」が重要
- ④発信力があること
 - ・ネット、口コミ、世界的食イベント、他の観光資源との組み合わせによる継続的な発信が必要

上記①～④の視点、アンケート結果などを踏まえ、以下10大提言を行う。

13

6. 大阪を世界的な食の都市にするための10大提言(1)

①「くいだおれ・OSAKA」で海外にも発信！

- ・江戸時代からの伝統、ストーリー性があり、総領事館にも浸透している
- ・京都(ブランド和食)、東京(グルメ都市)との差別化ができる
- ・ココロは【なんでも】【うまくて】【コスパよし】トコトン「食」を楽しめるまち

②戦略的に「大阪の食文化」を売れ！

- ・来阪誘導、団体客には「こなもん」、「串カツ」、「フードミュージアム」など
- ・リピーター確保には「割烹体験」などより深みのある「食文化」体験を
- ・外国人共通の好物「すし」「ラーメン」は大阪の強み・独自性を生かす
安くて・うまい寿司+「二寸六分の懐石」の「箱すし」等大阪鮮のPR
「インスタントラーメン」発祥地の売り
- ・「大阪ラーメン」ブランドを本格ラーメンに拡充 など
- ・各国、各地域の嗜好に合わせた「くいだおれツアー」
を拡充する



14

6. 大阪を世界的な食の都市にするための10大提言(2)

③「なべ王国・大阪」を打ち出せ！

- ・総領事館、他府県でも大阪の「なべ」は人気(特に肉系なべ)
- ・大阪料理の原点、「だしのこだわり」「始末の精神」にも合致
- ・『大阪6大鍋』を重点に売り込みを
「てつちり」(ふぐ消費6割)、「しゃぶしゃぶ」(エビヒロ発祥)
「魚すき」(丸萬発祥)、「うどんすき」(美々卯発祥)
「すき焼き」(焼きのこだわり)、「はりはり鍋」(西玉水発祥)



④個性豊かな「食のエリア」を発信せよ！

- ・「ミナミ」、「キタ」、焼肉の「鶴橋」、串カツの「新世界」、うまい寿司屋等が集まる
「天神橋筋商店街」、「天満屋台エリア」、「路地裏グルメ福島」、「大正トリル
沖縄」、「ウラなんば」、「黒門市場」、「空堀商店街」、レトロ長屋の「中崎町」
「昭和町」、「あべのハルカス」、「グランフロント大阪」、「河内ワイナリー」
… しかし「ミナミ」や「新世界」、「鶴橋」などのほかは知名度が低い

⇒「エリア」としての発信、エリアをめぐる「着地型フードツアー」の拡充

15

6. 大阪を世界的な食の都市にするための10大提言(3)

⑤大阪産(もん)料理を売り出せ！

- ・世界で一番都心に近いワイナリー「河内ワイン」
- ・ユニークな肉料理「犬鳴ポーク」・「うめビーフ」・「河内鴨」
- ・新鮮な伝統野菜、果実「天王寺蕪」、「田辺大根」、「勝間南瓜」
「毛馬胡瓜」、「服部越瓜」、「鳥飼茄子」、「大阪いちじく」等
- ・活けの水産物「淀川ウナギ」、「幻の魚アコウ」、「ガッチョ」、「泉ダコ」等



16

⑥「水辺」と「歴史」を生かす！

- ・水辺レストラン増設、「カキ船」の復活、道頓堀川「巨大いけす」の創設
- ・大阪城天守閣、西の丸迎賓館、旧市博物館、中之島図書館などの活用
- ・近代建築ビルを活用したレストラン
- ・法善寺横丁、お初天神通りなど情緒ストーリーの売り出し
- ・黒門市場など各市場界隈の売り出し
- ・住吉大社、四天王寺門前、堺旧市街、富田林寺内町
などの歴史的エリアでの食の発信



6. 大阪を世界的な食の都市にするための10大提言(4)

⑦ いつでも「食」を楽しめる【食祭都市】に

- ・年中バルを楽しめる都市に
- ・卸売市場の「オープン化」や地域ごとの「フード・ツーリズム」充実
- ・4年に1度の「食博」を毎年定期開催に
- ・「食の都・大阪グランプリ」作品の普及(デリス・レストランウイーク拡充)

⑧ 世界標準の環境整備と情報発信

- ・多言語による「公的ガイドブック」や「くいだおれマップ」の作成
- ・各国のガイドブックへの記載売り込み
- ・観光客の投票による大阪観光局認定「大阪くいだおれ48」
- ・各国総領事館「くいだおれ特別大使」の委嘱
- ・ドラマ、映画による発信
- ・有名ブロガー、ネット口コミ発信
- ・メニュー・店内案内の多言語化、図示、写真展示
- ・ボランティア案内人、コンシェルジュの養成、ガイドツアーの充実
- ・無料Wi-Fi環境の整備、翻訳アプリの普及
- ・ハラール認証の拡大

17

6. 大阪を世界的な食の都市にするための10大提言(5)

⑨ くいだおれ人材の育成(食育のスマス)

- ・「大阪産食材」や「大阪名物料理」を学校給食に
- ・大阪府立大学、大阪市立大学で「くいだおれ学」を
- ・大阪を世界的なフードコンテストの都市に
(「食の甲子園」実現、食の都大阪グランプリの拡大)
- ・「大阪料理」修行の留学生の呼び込み(特区)
- ・「食の海外留学促進奨学金」の創設



⑩ 関西全体で「世界NO1の美食ゾーン」に

- ・「伝統和食」の京都、「神戸ビーフと洋菓子」の神戸とのタイアップ
- ・さらには「鮮魚と果実」の和歌山、「近江牛、米、淡水魚」の滋賀、
「伝統郷土料理」の奈良とも連携し、「関西美食ゾーン」を売りに！

* 最後に

- ・大阪の「食」は底力があるが、まだ魅力が十分浸透していない。まず、大阪の人自身が食の魅力を見つめなおし、発信することが大事。もちろん「食」のみで集客はできない。他の観光資源も組み合わせ、内外から多くの人が呼び込み、「にぎわう大阪」を地域が一体となり目指していくことが必要である。
- 今回の研究、提言がその一助になれば幸いである。

18

扁額で巡る大阪（大阪の扁額50選）

村田 幸雄

【目的】

扁額とは、一言でいえば「建物の目立つ場所に書や絵を書いて掲げたもの」である。扁額は寺院の山門や諸堂、神社の鳥居や社殿、茶室等で見ることが出来る。更に扁額には奉納額や文字看板等様々な形態のものが存在する。扁額は建物の一番目立つ場所に掛けられており、いわば「建物の顔」といえるが、従来からあまり注目されてこなかった。

扁額の揮毫者は、天皇から実業家、文化人まで様々。扁額が掛けられた時代、場所、目的も様々で、扁額から歴史・文化の一端を知ることが出来る。「扁額の中には歴史と文化が詰まっている」といえる。

大阪の扁額50選を選定し、扁額から大阪の歴史・文化を眺め、扁額の魅力を伝えるとともに、大阪散策の素材として提供したい。

【内容】

大阪の扁額50選を選定し、其々について、扁額の意味、内容を大阪の歴史・文化を交えてまとめた。ここでは紙面の関係上、例として、特に興味深い扁額をポイントのみ以下に列挙した。50選の詳細（要約）については添付資料を参考。

○住吉大社の鳥居扁額「住吉神社」 何故、住吉大社に「住吉神社」の額。同じ扁額が東京佃島・住吉神社にもあった。

○京阪電鉄・天満橋駅の「先覚志茲成」 宿願の大坂都心への乗り入れを達成し、大阪市の「市内交通市営主義」に風穴を開けた記念碑的扁額。

○積川神社の鳥居扁額「正一位積川大明神」 白河上皇が初めての熊野詣の途中で揮毫した扁額。

○常光寺の山門扁額「常光寺」 河内音頭と足利義満の関係を結びつける山門扁額。義満の寄進した木材の運搬の際の掛け声が河内音頭の原形となった。

○万博記念公園・茶室万里庵の扁額「万里」 大阪万博で実現した表千家と裏千家、両家元の合作の珍しい扁額。

○高津宮絵馬堂の「4代目坂田藤十郎襲名祈願絵馬」 231年ぶりに復活した上方歌舞伎の大名跡の襲名祈願絵馬。

○生国魂神社の「奉納算額」 大坂の和算家・宅間流の奉納算額（復元）。

【結果（今後の考察含む）】

今後は大阪の扁額の個別の紹介から発展させて、テーマをしぼり（例えば「大阪の奉納額」、「大阪の禅寺の扁額」のように）50選の扁額以外の扁額も含め紹介し、大阪散策の素材として提供したい。

○大阪の扁額50選

(要約のみ)

(1) 大阪市内の扁額

①露天神社（お初天神）の「金刀比羅宮」と「水



天宮」（北区）

蔵屋敷の鎮守社が幾多の変遷を経て、露天神社の境内で存続。

②大阪天満宮の「鳳輦庫」と「神輿庫」（北区）



天神祭の変遷を語る扁額。



渡御に御鳳輦が加わったのは明治以降。神仏分離令が原因。

③天満天神繁昌亭の扁額「楽」（北区）



揮毫者は桂米朝。

明治時代の桂派の寄席「幾代亭」の扁額「薬」に由来。

④天神橋、天満橋の橋名銘板（中央区）



天神橋、天満橋は明治18年の大洪水で流され、その後ドイツ製の鉄橋に架け替えられた。天神橋、天満橋の歴史を物語る橋名銘板。

⑤京阪天満橋駅の「先覺志茲成」（中央区）



揮毫者は当時社長の村岡四郎氏。

意味は、「先輩の宿願である大阪都心部との直結を果たす」。大阪市の「市内交通市営主義」に風穴を開けた記念碑的扁額。

⑥綿業会館の「経緯通達」（中央区）



揮毫者は大日本紡績社長であつた菊池恭三氏。

意味は、「縦糸と横糸の織りなす調和で物事がうまくはかどる」。日本の紡績業が世界一に向か躍進していた時代に書かれた額。

⑦吉野寿司の扁額「吉野鮓」（中央区）



揮毫者は比田井天来。鮓は鮎と同じもので、塩と米と魚を醸した保存食。今日のすしの原形。

⑧大阪企業家ミュージアムの扁額「弘成館」と「朝



陽館」（中央区）

大久保利通が五代友厚に贈った額。弘成館は鉱山事業を総括する組織、朝陽館は国産藍の事業で、どちらも五代友厚が創業した事業

⑨三木楽器・開成館の「書籍楽器大阪開成館 三



木佐助」（中央区）

曾て心斎橋筋は本屋の町であつた。三木楽器のルーツは書店。

⑩高津宮の「4代目坂田藤十郎襲名祈願絵馬」（中央区）



231年ぶりに復活した上方歌舞伎の大名跡「坂田藤十郎」。額は、関西の歌舞伎絵師・穂束とよ国が描いた。

⑪高津宮の「仁徳天皇御製」（中央区）



仁徳天皇の高津宮、「高き屋にのぼりて見れば烟立つ民のかまどは賑わいにけり」。国史によれば難波の地には5度宮殿が造営された。

⑫法善寺横町の扁額（中央区）



藤山寛美が書いた横線が一本足りない「善」の額。一本足りない理由は諸説ある。

⑬高島屋の扁額「高島屋美術部」（中央区）



揮毫者は富岡鉄斎。

鉄斎を全国区に引き上げた高島屋美術部の額。

⑭阪神電鉄の扁額「萬方慶」（福島区）



大阪駅前の整備・近代化とともに大阪地下延長線開通時に当時社長の今西與三郎氏が揮毫。

意味は「全ての人が慶ぶ」

⑮和光寺の扁額「放光閣」（西区）



長野・善光寺の本尊・阿弥陀如来が出現した阿弥陀池の中の島にある宝塔に掛けられた扁額。

⑯善福寺の「どんどろ」（天王寺区）



傾城阿波の鳴門の「順礼にご報謝」の名場面。「どんどろ」はこの辺りに屋敷があった大坂城代土井殿が訛ったもの。

⑪生國魂神社の「算額」天王寺区)



宅間流鎌田俊清の門人山口幸次郎が奉納した算額を復元したもの。

⑫四天王寺の「釈迦如来 転法輪処 当極樂土



揮毫者は聖徳太子や弘法大師、小野道風、三井慶耀と諸説ある。意味は「釈迦が説法を説く所で、極楽の東門の中心である」。日想觀を表す扁額。

⑯四天王寺庚申堂の表札「本邦最初庚申堂」(天王寺区)



日本最初の庚申堂。この庚申堂が庚申信仰の起源となった。

㉑清寿院の「関帝廟」(天王寺区)



神戸の關帝廟より以前にあつた大阪の關帝廟。雜居地に住む中国人が中国風に改築した。

㉒広田神社の「赤エイの奉納絵馬」(浪速区)



赤エイを断って祈願すれば、痔疾に靈験あらたかと信仰された。赤エイは広田神社の神使。

㉔西方寺の「摂州合邦辻闇魔堂」(浪速区)



淨瑠璃・摂州合邦辻の舞台となつた闇魔堂。俊徳丸の伝説。

㉕加賀屋新田会所の「愉園」(住之江区)



揮毫者は甲骨文字研究の第一者の羅振玉。愉園の命名は西村天因。

㉖住吉大社の「住吉神社」(住吉区)



揮毫者は有栖川宮幟仁親王。住吉大社は「延喜式」で明神大社、近代社格制度で官幣大社に列

格されるも、「住吉大社」と称したのは戦後。

同じ額が東京の佃島・住吉神社にもある。

㉗大念佛寺の「大源山」(平野区)



揮毫者は宝鏡寺宮徳巖理豊禪尼。理豊禪尼は宝鏡寺の権威確保の

ため全国の寺社に扁額を揮毫。

(2) 北摂の扁額

㉘勝尾寺の大鳥居扁額「勝尾寺」(箕面市)



座主行巡が清和天皇の病氣を祈祷により治し、勅額を賜った。

㉙万博記念公園の万里庵の扁額「万里」(吹田市)



大阪万博で建設された茶室の扁額。表千家と裏千家、両家元合作の珍しい扁額。

㉚郡山宿本陣(椿の本陣)の関札(大阪府茨木市)



郡山本陣には、参勤交代時に西国大名達が利用した際の関札が残っている。浅野内匠頭の刃傷事件時、赤穂城の開城の使者であった脇坂淡路守の関札もある。

㉛慶瑞寺の扁額と対聯(高槻市)



扁額(祥雲山)は隱元隆琦、対聯(濟道興時全身擔荷、祥雲現處遍界輝煌)は高泉性敦の揮毫。

㉜島本町立歴史文化資料館の「麗天館」(島本町)



揮毫者は近衛文麿。楠木正成・正行親子の桜井の駅跡の記念館に掲げられていた。

(3) 東大阪の扁額

㉝百濟王神社の扁額「百濟国王 牛頭天王」(枚方市)



百濟王敬福は聖武天皇から枚方に土地を賜り百濟王神社と百濟寺を創建した。牛頭天王は、インド祇園精舎の守護神で、素戔鳴尊と習合された。

㉞大津神社の扁額「大津神社」(東大阪市)



大阪の生んだ聖僧・慈雲の揮毫した扁額。慈雲は正法律を説き、梵字研究の第一人者。

㉟近畿日本鉄道の扁額「日日新」(東大阪市)



近鉄奈良線・新生駒トンネル西坑口にある。揮毫者は当時社長の佐伯勇氏。出典は「大学」の「荀日新 日日新 又日新」

④常光寺の山門扁額「常光寺」 (八尾市)



揮毫者は足利義満。義満が常光

寺に復興の木材を寄進し、木材

運搬の際の掛け声が木遣り音

頭となり、河内音頭の原形となった。

(5) 和泉の扁額

④水野鍛錬所の「鍛鐵降魔」 (堺市)



揮毫者は法隆寺管長の佐伯定胤氏。

水野鍛錬所は法隆寺五重塔の魔除

けの鎌を制作した。

④南宗寺の「甘露門」 (堺市)



揮毫者は千宗旦の參禪の師・清巖

宗渭。意味は「仏の教え、仏の境

地に至る門」

④岸和田本町「返魂丹」 (岸和田市)



揮毫者は趙陶齋。返魂丹も反魂

丹も「魂を蘇らせる」の意味。

趙陶齋は近世日本第一級の書家。

④久米田寺の扁額「隆池院」 (岸和田市)



揮毫者は松平定信。

隆池院は、行基が築造した久米

田池を維持管理した寺院。

④積川神社の「正一位積川大明神」 (岸和田市)



白河上皇が熊野詣の途中、扁額

の文字が拙いので、自ら書き直

した。

④水間寺の「奉納額」 (貝塚市)



左甚五郎の流れと口伝される

地車彫刻の名人・二代目高松彦

四郎の木彫りの奉納額。

④波太神社の「三十六歌仙扁額」 (阪南市)



神を楽しませ、神の加護を祈願するた

めに歌仙額を奉納した。土佐派の宮廷

絵師土佐光成の筆になる。

(6) 大阪府域外の扁額

④神応寺の扁額「神応禪寺」 (京都府八幡市)



独庵玄光が揮毫し、淀屋四代目

重當が寄進した。淀屋闕所の後

五代目広當は八幡に住んだ。

④小西酒造・ミュージアム長寿蔵の「白雪」 (兵庫



県伊丹市)

賴山陽は伊丹の酒、白雪、剣菱、

男山を好んだ。

(4) 南河内の扁額

④葛井寺の「大阪紫雲講奉納額」 (藤井寺市)



「講」を組んで行われた西国三十三か

所巡りの奉納額。

④道明寺天満宮の「正一位太政 大威徳天神」



(藤井寺市)

菅原道真的怨霊を鎮める為最高

の官位と尊称が贈られた。揮毫

者は宝鏡寺宮徳巣理豊禅尼。

④誉田八幡宮の「八幡宮」 (羽曳野市)



鳩の形をした「八」の字、鳩は八幡神
の神使。鳩字の書法は弘法大師にまで
溯る。

④叡福寺の「聖徳廟」 (太子町)



揮毫者は岸信介。岸信介は聖徳太
子の一万円札発行時の首相。

④弘川寺の「西行堂」 (河南町)



似雲法師が尋ね当てた西行法師
の墓の傍らに建てた西行堂の扁
額。

④旧杉山家の「生前富貴草頭露 身後風流陌上花」



(富田林市)

揮毫者は富岡鉄舟。意味は「現世

での富や身分が高くても死んで
しまえば草の上の露や路上の花のように儂いもの

だ」蘇東坡の詩の一節。

④観心寺の「観心寺」 (河内長野市)



嵯峨天皇の勅額。勅額「観心寺」
の異形の文字は御本尊を守護す
る金剛力士を表している。

適塾を生んだ大阪　その医蹟を巡る

竹中 裕昭

【目的】

2011年（平成23年）、第28回日本医学会総会（東日本大震災のため縮小開催）が行われた際、参加者が自由散策のために利用できる「医蹟巡りガイド」がWeb上で配信された。

一方、筆者の知る限り、大阪に関するそのような資料はなく、適塾など歴史教科書に登場するような有名な医蹟ですら、その場所をご存知ない方が多く、まして、それ以外の医蹟に関しては、ほとんどその存在すら知られていない。

そこで今回、大阪の医学史について整理し、興味を持たれる方が手軽に利用できる「大阪医蹟めぐりガイド」を作成することで、大阪の観光や大阪の魅力を紹介する一助となることを、本研究の目的とする。

【内容】

ピックアップした大阪市内の医蹟36箇所のうち、医学的価値が比較的高く、かつ観光スポットともなりうる医蹟を20箇所に絞り込み、モデルコースを作成した。

【結果（今後の考察含む）】

「伝説の時代の医蹟を訪ねる」「赤十字精神の芽生えから名医誕生時代の医蹟を訪ねる」「蘭学ブームから近代医学誕生時代の医蹟を訪ねる」という3つのモデルコースを作成した。コース選定に当たっては、時代背景別になることを意識した。

なお、459年（雄略天皇3年）に来日し、大阪で最初の医療を行ったと思われる高句麗の僧、難波薬師（徳来）については、その活動の詳細がわかつていないため掲載できなかった。また、適塾発祥の地（瓦町適塾）については、1箇所に特定できなかつたため掲載できなかつた。今後、検証を重ね、将来的には医蹟めぐりガイドに掲載したい。

今回、医蹟選定の妥当性の検証として、2013年度大阪府医師会医学会総会で20箇所の医蹟を報告し、ディスカッションを行った。今後、更に様々な機会を通じて妥当性を高めたいと思っている。

参考・引用文献

- 1) 中野 操：大阪名医伝. 思文閣出版, 1983.
- 2) 鈴木 祥：日本医家列伝. 大修館書店, 2013.
- 3) 梅渓 昇：緒方洪庵と適塾. 大阪大学出版会, 1996.
- 4) 芝 哲夫：適塾の謎. 大阪大学出版会, 2005.

大阪医蹟めぐりガイド

モデルコース① 伝説の時代の医蹟を訪ねる

A 少彦名神社→B 大国主神社→C 安倍晴明神社→
D 四天王寺（聖徳太子四箇院跡）→E 勝鬘院・愛染堂（聖徳太子施薬院跡）



A 少彦名神社→（徒歩）→地下鉄「淀屋橋」→（御堂筋線）→地下鉄「大国町」→B 大国主神社→（御堂筋線）→地下鉄「天王寺」→（徒歩）→阪堺「天王寺駅前」→（上町線）→「東天下茶屋」→（徒歩）→C 安倍晴明神社→（徒歩）→王子町バス停→（市バス 62 番系統）→天王寺西門前バス停→（徒歩すぐ）→D 四天王寺→（徒歩）→E 愛染堂

- * 伝説の時代の医療は、因幡の白兎を助けた大国主命から始まる。大国主命、及び彼を助けた少彦名命を祀る神社は全国にあり、大阪にも存在する。飛鳥時代には、日本最初の病院・社会福祉施設である四箇院（しかいん）が、聖徳太子によって四天王寺に設置された。平安時代になると、すでに漢方薬が導入されていたが、医療や僧侶の祈祷などが効かない場合は陰陽師に頼られていた。代表的陰陽師、安倍晴明は大阪で生まれている。

モデルコース② 赤十字精神の芽生えから名医誕生の時代の医蹟を訪ねる

A 中央公会堂前（合水堂跡）→B 小楠公義戦跡碑→C 太閤下水→D 狸坂大明神（南大江公園内）→E 太平寺・北山不動明王



A 中央公会堂前（合水堂跡） →（徒歩）→京阪「なにわ橋」→京阪中之島線→京阪「天満橋」→（徒歩すぐ）→B 小楠公義戦跡碑→（徒歩）→地下鉄「天満橋」→（谷町線）→地下鉄「谷町四丁目」→C 太閤下水→（徒歩）→D 狸坂大明神→（徒歩）→地下鉄「松屋町」→（長堀鶴見緑地線）→地下鉄「谷町六丁目」（乗り換え）→（谷町線）→地下鉄四天王寺前夕陽ヶ丘」→（徒歩）→E 太平寺

楠木正成（大楠公）の長男、楠木正行（小楠公）は、南北朝の戦いで橋から大川に落ちた敵兵5百余人を救出した。この行為はわが国の赤十字精神の化身と称えられる。日本最古の現役下水道である太閤下水は、豊臣時代の画期的衛生施設である。江戸時代になると、いわゆる名医や医塾ができる。華岡家の合水堂は適塾のライバル的存在として有名である。

モデルコース③ 蘭学ブームから近代医学誕生時代の医蹟を訪ねる

A 中天游邸跡→B 伏屋素狄顕彰碑（阿弥陀池和光寺）→C 難波島跡→D 橋本宗吉絲漢堂跡
 E 北御堂→F 除痘館発祥の地→G 除痘館記念資料館→H 適塾→I 大阪府医学校・大阪病院跡（大村益次郎卿殉難報告之碑）→J 浪華仮病院跡（大福寺）



A 中天游邸跡→（徒步）→市バス「京町堀二丁目」→市バス 55 番系統→市バス「あみだ池」→（徒步すぐ）→B 伏屋素狄顕彰碑（阿弥陀池和光寺）→（徒步）→地下鉄「西長堀」→（長堀鶴見緑地線）→地下鉄「大正」→（徒步）→C 難波島跡→（徒步）→地下鉄「大正」→（長堀鶴見緑地線）→地下鉄「心斎橋」→（徒步）→D 橋本宗吉絲漢堂跡→（徒步）→地下鉄「心斎橋」→（御堂筋線）→地下鉄「本町」→（徒步すぐ）→E 北御堂→（徒步）→F 除痘館発祥の地→（徒步）→G 除痘館記念資料館→（徒步）→H 適塾→（徒步）→市バス「淀屋橋」→市バス 62 番系統→市バス「国立病院大阪医療センター」→（徒步）→I 大阪府医学校・大阪病院跡（大村益次郎卿殉難報告之碑）→（徒步）→市バス「国立病院大阪医療センター」→市バス 62 番系統→市バス「上本町四丁目」→（徒步すぐ）→J 浪華仮病院跡（大福寺）

大阪発 自転車で、いまどき天皇陵参拝。

高柳 淳一

【目的】

観光資源として天皇陵を今一度見直してみたい。京都・大阪・奈良には天皇陵が集中し、自転車を使えば効率よく巡ることが可能である。百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録に向けた動きや、昨年11月に宮内庁から発表された天皇の「葬儀のあり方」に関する報道なども踏まえ、改めて、気軽で健康的な「自転車で巡るいまどき天皇陵参拝」をご提案する。

【内容】

世界的に見れば、エジプトのピラミッドや中国の始皇帝陵など「お墓」は立派な観光資源である。不遜にはならない範囲で、天皇陵をもっと観光地として活用できないだろうか？大阪には16、奈良には30、そして京都には69代分もの天皇陵が集中する。明治天皇の埋葬(伏見桃山御陵)以降、戦前には多くの参拝者が天皇陵を訪ね歩いた。もちろん当時とは「時代」が違うが、天皇陵を自転車観光という側面から捉えなおしてみた。電車やレンタサイクルも利用する畿内10コースを提案したいが、今回は大阪府内16ヵ所を自転車のみで巡るコースを紹介する。また、実際の移動距離、時間なども示しつつ、それぞれの陵墓の特徴を整理しながら、観光資源としての天皇陵および自転車観光の今後の課題も抽出してみた。

【結果】

大阪発の自転車による天皇陵参拝を推奨するには、今後、少なくとも次のような課題を解決していくところである。

(1) 天皇陵自体の魅力発信

仁徳陵など巨大古墳を除けば、天皇陵の場所も歴史もあまり意識されていない。仮に百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産に登録された場合、拝所から広大な縁を拝むだけでは「残念な世界遺産」になりかねない。不遜にはならない範囲で、思い切って「パワースポット」と位置づけたり、イメージキャラを設けるくらいの分かりやすい「情報発信」があつてもよいのではないか。

(2) 自転車道など環境の整備

大阪府内の天皇陵参拝に非常に便利な「南河内サイクリングロード」を軸として、長期的には、他の大規模自転車道と接続し、自転車道の回遊性を高めていくといきたいところ。また、大阪市内のレンタサイクル事情も改善の余地は大きい。

(3) 民間の取組み(きっかけづくり)

沿線に多くの天皇陵を抱える鉄道会社が先駆けて、企画乗車券(レンタサイクル割引券付)を商品化するなど旅客誘致に努めるのも一手。世界一の自転車部品メーカー「シマノ」や自転車メーカーでもある「Panasonic」など、多くの企業が事業活動の一環として「大阪発自転車ツーリズム」を推進できれば面白い。

1. 犩内の天皇陵

現天皇陛下は第 125 代目。よって、世には 124 代に渡る天皇陵が存在する。ただし、重祚(ちょうそ 2 度天皇に即位)された天皇や、京都の深草北陵や泉湧寺・月輪陵のように複数が祀られる天皇陵もある。

●都府県別 天皇陵の分布 ※重祚(ちょうそ)された天皇、北朝 5 代の天皇は除く

都府県	天皇(数字は第〇代)	計
奈良県	1~13、20、23、25、28、29、32、34、37、40~45、48、49、51、96	30
大阪府	14~19、21、22、24、26、27、30、31、33、36、97	16
京都府	38、50、52~74、76~80、82~95、98~122	69
滋賀県	39 弘文天皇	1
兵庫県	47 淳仁天皇	1
香川県	75 崇徳天皇	1
山口県	81 安徳天皇	1
東京都	123、124 大正天皇、昭和天皇	2

奈良県や京都府に多くの天皇陵が存在していることは納得だが、大阪府内に 16 の天皇陵が存在している事実はあまり認識されていないのではないか。

●大阪府内の天皇陵

御代	天皇	陵墓名	場所
第 14 代	仲哀天皇	惠我長野西陵	藤井寺市藤井寺 4 丁目
15	応神天皇	惠我藻伏崗陵	羽曳野市誉田 6 丁目
16	仁徳天皇	百舌鳥耳原中陵	堺市堺区大仙町
17	履中天皇	百舌鳥耳原南陵	堺市堺区石津ヶ丘
18	反正天皇	百舌鳥耳原北陵	堺市堺区北三国ヶ丘町 2 丁目
19	允恭天皇	惠我長野北陵	藤井寺市国府 1 丁目
21	雄略天皇	丹比高鷲原陵	羽曳野市島泉 8 丁目
22	清寧天皇	河内坂門原陵	羽曳野市西浦 6 丁目
24	仁賢天皇	埴生坂本陵	藤井寺市青山 3 丁目
26	繼体天皇	三嶋藍野陵	茨木市太田 3 丁目
27	安閑天皇	古市高屋丘陵	羽曳野市古市 5 丁目
30	敏達天皇	河内磯長中尾陵	南河内郡太子町大字太子
31	用明天皇	河内磯長原陵	南河内郡太子町大字春日
33	推古天皇	磯長山田陵	南河内郡太子町大字山田
36	孝徳天皇	大阪磯長陵	南河内郡太子町大字山田
97	後村上天皇	檜尾陵	河内長野市寺元 観心寺内

仁徳陵や応神陵のような巨大古墳が集まる百舌鳥・古市古墳群だけなく、特に蘇我氏系の天皇陵が太子町の磯長谷(しながたに)に分布。また、茨城市太田には越前出身で異色の天皇・繼体陵(高槻市の今城塚古墳が真の御陵とも)が存在するとともに、河内長野市の観心寺(金堂は大阪府下最古級の国宝建築物)内には、南朝の後村上天皇(後醍醐天皇の息子)陵が立地している。

2. 天皇陵の変遷

- 天皇が大王と呼ばれていた古墳時代 巨大な前方後円墳が主体
- ⇒7世紀 大陸の政治システムの影響を受け大型の方墳、円墳へと変化
- ⇒奈良時代から平安時代初頭 天皇陵は、土葬される例や、墳丘の事例
- ⇒平安期は仏教思想の影響により、火葬の導入(持統天皇)や薄葬も
- ⇒院政期の白河天皇にいたって仏式の堂に納骨する方式に
- ⇒江戸時代の後水尾天皇以降は代々京都泉涌寺に陵墓が建立
- ⇒明治天皇陵 天智天皇陵に範を取ったとされる上円下方墳が採用
- ⇒大正天皇以後、天皇・皇后の陵は東京都八王子市の御料地内に

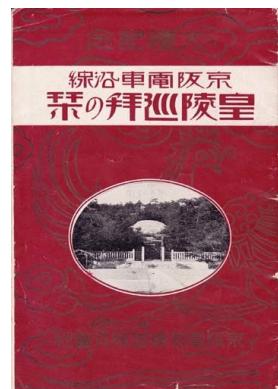
※平成25年11月14日 宮内庁発表

現天皇陛下について、自らの陵の形状や儀式については「従来どおり」(大正、昭和天皇と同じく「上円下方墳」、東京多摩にある武蔵陵墓地に埋葬)とし、葬儀は「火葬」という発表が宮内庁からなされた。

天皇の火葬は1617年の後陽成帝の葬儀以来となる。

3. 天皇陵参拝の実態

昭和初期、天皇陵を訪れる参拝者は増え続けた(昭和2年度3,642千人⇒昭和13年度13,647千人～昭和14年発行「皇陵を中心とする資料展記念録」)。京阪電車でも沿線にある伏見桃山陵をはじめ、大正～昭和初期にかけては多くの参拝客で賑わったとされる。右は昭和初期に発行された「皇陵巡拝の栄」。



4. 自転車で行く大阪府内のモデルコース(例)

～起点はあべのハルカス付近から計測

(1) 百舌鳥古墳群コース

天皇陵は3ヵ所(16代・仁徳陵、17代・履中陵、18代・反正陵)。また、「いたすけ古墳」や「御廟山古墳」を巡る。

・距離(起点から往復)	26.5 キロメートル
・時間(うち参拝時間)	約2時間(40分)
・消費カロリー(成人男性)	680 キロカロリー

(2) 古市古墳群コース

天皇陵は7ヵ所(14代・仲哀陵、15代・応神陵、19代・允恭陵、21代・雄略陵、22代・清寧陵、24代・仁賢陵、27代・安閑陵)。誉田八幡宮や日本武尊陵も巡る。

・距離(起点から往復)	41.5 キロメートル
・時間(うち参拝時間)	約3時間(60分)
・消費カロリー(成人男性)	1,060 キロカロリー

(3) 磯長谷古墳群コース

天皇陵は4ヵ所(30代・敏達陵、31代・用明陵、33代・推古陵、36代・孝徳陵)。これに聖徳太子廟(叡福寺)、大阪府立近つ飛鳥博物館も加え、太子町の長閑な丘陵地帯を巡る。アップダウンはあるが、おススメ！

・距離(起点から往復)	59.5 キロメートル
・時間(うち参拝時間)	約4時間(110分)
・消費カロリー(成人男性)	1,530 キロカロリー

5. 自転車利用にあたって

(1) 大規模自転車道

南河内地区に点在する天皇陵参拝に最も便利なのが、「南河内サイクルライン」(距離 21.1km)。天皇陵参拝のための「参拝ロード」とでも名付けたい。大阪市内から継体天皇陵に向かうには「北大阪サイクルライン」も便利。このほか「なにわ自転車道」「北河内サイクルライン」の2つが国土交通省の定める大規模自転車道だが、回遊性を向上させるため大阪市内を縦断する自転車道を整備できれば、府内全域で大きく自転車ツーリズムに寄与することになるのではないか。

(2) レンタサイクル事情

天皇陵最寄りの駅前にレンタサイクル店はあるが、アップダウンを苦にせず移動できるスポーツサイクルを貸し出す店は稀。自転車のまち「堺」では堺観光協会が市内で観光案内所を運営。各案内所では様々な種類の自転車の貸出も行っており、低額で利用できる。このような取り組みが、大阪市内も含めた地域で浸透していくれば、レンタサイクル事情も大きく変わってくる可能性がある。

6. まとめ

天皇陵参拝という一見お堅いテーマだが、自転車というアイテムと組み合わせることで、天皇陵の魅力を再発見し、より一層気軽で健康的な「いまどき参拝」が可能になるのではないか。そのためには、思わず自転車で巡ってみたくなるような、

- ・天皇陵 자체の魅力の発信
- ・自転車道など環境の整備
- ・民間事業者の取組み(きっかけづくり)

を組み合わせて展開していくことで、大阪発 自転車観光のテーマのひとつとして「追い風」が吹いてくれればと考える。

以上

<参考文献>

- ・歴代天皇総覧(中公新書 笠原英彦著)
- ・天皇陵の誕生(祥伝社 外池昇著)
- ・天皇陵古墳への招待(筑摩選書 森浩一著)
- ・天皇陵の謎(文春新書 矢澤高太郎)
- ・明治天皇大喪儀写真(新潮社 橋爪紳也監修・解説)
- ・天皇と葬儀日本人の死生観(新潮選書 井上亮著)
- ・歴史の中の天皇(岩波新書 吉田孝著)
- ・別冊歴史読本図説天皇陵(新人物往来社)
- ・天皇陵総覧(新風社 北島静波著)
- ・大阪アースダイバー(講談社 中沢新一著)
- ・地図で分かる天皇家の謎(宝島社)
- ・とんでもなく面白い「古事記」(P H P 文庫 斎藤英喜著)
- ・B S M日本の観光が変わる自転車活用術(笠倉出版社) ほか

J R 大阪環状線でめぐる大阪観光

西本 広光

【目的】

J R 大阪環状線（以降：環状線）は、大阪の街中をぐるりと廻り始めて約 50 年間（鉄道としての歴史は 100 年以上）、明治から平成と時代に応じて街の暮らしや観光を支えてきた。その姿は今時の大都市での交通機関としては、いささか古めかしい稀有なオレンジ一色の電車であるが、大阪の街風景に欠かせない貴重な存在である。大阪をイメージする観光シンボルは多数あるが、身近にありながら日頃地元の人からは見過ごされることも多く、意外と地元の人でも利用頻度が低いのが玉に瑕。だが大型高層商業施設など進化著しい大阪駅や天王寺駅から周回すれば大阪の身近な街の風景や歴史観ある観光地がほどよく見えてくる。多くの浪速っ子が環状線を利用し愛着を抱き、また大阪を訪れる国内外からの観光客にも周知、利用してもらうことで、華やかで歴史のある、よりディープな大阪の街を楽しむための提案を興味関心のある人に提示することを目的とする。

【内容】

環状線の前史は明治期にまで遡るが、その歴史・変遷、利用の状況や今後の計画・方向性を知り、そして環状線内 19 の駅はもちろん、沿線の概況を把握することで改めて環状線の魅力や将来の観光活用のポテンシャルを探り考える。多くの駅周辺には歴史が漂う著名な観光地や寺社、人で賑わう大阪特有とも言える商店街など観光スポットが多数あり、また環状線自体（電車、駅、高架下空間）がまさしく大阪観光の資産である。浪速っ子にも感心を寄せてもらえるよう、環状線にまつわる魅力、大阪観光を考える。

【結果（今後の考察含む）】

2013 年度の研究開始にあたり、ジャストタイミングにて J R 西日本から 2017 年（平成 29 年）達成を目指した中期計画が発表され、その中で環状線のリニューアルを取り上げている。その中身は「行ってみたい」、「乗ってみたい」線区にする、訪日観光客に対する受入体制整備、駅美化・改良、車両新製、高架下空間・駅周辺の魅力向上、自治体・他社との連携等、計画内容から J R 西日本の本気度が十分伺える。環状線ブラッシュアップ、環状線を利用した大阪観光の活性化については、まだまだアイデアはたくさんあると思うので広く意見を出し、取り纏めて環状線でめぐる大阪観光を世の中に浸透させる。

1・はじめに～環状線の生い立ち

【創設期～】

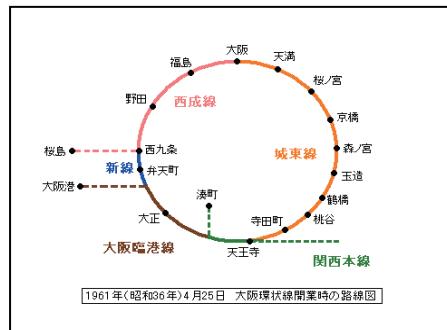
環状線の生い立ちは明治時代の鉄道創設期における、柏原～天王寺～湊町間の大坂鉄道と大阪～西九条～安治川口間の西成鉄道（西成線）から始まり、その後に天王寺からいわゆる当時の官設鉄道である東海道本線との連絡線として天王寺～玉造～梅田間（その後大阪に統合）の同じく大阪鉄道（後の城東線）と続いた。城東線（当時はまだ名称なし）は当時密集していた街を避けるように市街の東側に鉄道が敷設されたようで、余談だが、当時、湊町から梅田（大阪）迄を最短コースで連絡していたら今の環状線は存在してなかつたかもしれない。

【発展期～】

大正、昭和に入ると大大阪時代などを経て大阪の工業・商業の発展に伴い、様々な線区の支線が見られた。特に未開発であった現在の環状線の西侧工業地帯での海運、貨物運送などの役割を担った時期もあり、天王寺～境川信号所～浪速貨物駅（大阪港）、京橋～淀川貨物駅、野田～大阪市場駅など貨物の取扱いが大きく目立つ時期であった。今は廃線となった跡が所々にひっそりと残る。

【完成期】

安治川の水運がまだ盛んで、大型船の往来が多いということもあり鉄道を通すための架橋など反対する声も根強かったが、大阪市長の積極的な鉄道建設の推進もあり、1961年（昭和36年）西九条～境川信号所が開通し、大阪環状線が誕生した。だが当時、西九条駅は駅舎が高架と地上で分離していて線路が繋がっておらず、環状運転が開始されたのは3年後の1964年（昭和39年）となる。ちなみに大阪環状線の開通式は1961年（昭和36年）に新しい駅ということで弁天町駅にて開催されたことは意外と知られていない。それまで弁天町は浪速っ子さえ知らない、まったくの無名の地名だった。大阪砲兵工廠のあつた京橋大阪ビジネスパーク（OBP）の地名が当時、弁天町といわれていたらしい。また当時、この周辺の交通は市電が中心になっていた。そこに環状線が開通したが、港区・大正区方面では大歓迎されたそうである。当時の写真パネルが弁天町にある交通科学博物館に展示されている、現状とそう変わらぬ環状線電車の面影が見られ、ここから正式に大阪環状線として約50年の歴史が始まった。



【図1】環状線開業時路線図



【図2】環状線開通式（弁天町駅）

【成長期】

昭和も後半になり大阪の工業・商業の衰退などもあり環状線も様変わりした、貨物の取扱いが一部を残し廃止されたこともあり、環状線から派生した各貨物支線は廃線となつた。かわって旅客新駅（大阪城公園駅）が開設され、奈良方面からの環状線乗り入れなど進化してきた。そして劇的変化として国鉄からのJR民営化となる。平成に入るとユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ）の開場や関西国際空港の開港により、多くの観光客が利用する機会が増え、それまで閑散としていた環状線の西側も特急・快速街道として賑わうようになってきた。創設期から約100年以上大阪の街と一緒に移り変わってきた環状線、それ自体が大阪の鉄道資産、観光資産として大切なものである。

2・環状線周辺の魅力

環状線は全線21.7キロメートル、線内19駅、約40分で一周する。厳密にいうと現在では環状運転を行う電車は日中だと15分に1本と少なく、奈良や関空、和歌山方面へ向かう快速・特急電車が多いのが実情である。19の駅を正確に順序よくすべて言える人は少ないかもしれないが、各駅及び周辺にはそれなりの歴史と観光名所が存在する。大阪から京橋方面へ向かうと、まずは日本一長い天神橋筋商店街（2.6キロメートル）のど真ん中に位置する天満、大川に咲く桜がきれいな桜ノ宮、そして環状線内最強の駅、京橋。なぜ最強の駅かというと、地下鉄や私鉄が便利な大阪市内の主要駅の中で、京橋駅の各方面アクセスは環状線利用がとても便利で、降立つ街も非常に大阪の匂いが感じられるからである。京橋を出て大阪城公園、森ノ宮、玉造までは大阪観光の目玉である。太閤さんの大阪城、公園、大阪ビジネスパーク（OBP）、真田幸村ゆかりの地など歴史一杯、ここはゆっくりと時間を取って散策してみたいものである。次の鶴橋から桃谷、寺田町はエネルギーッシュな駅である。焼肉店や韓国料理店が多く、鶴橋駅周辺の賑わいは環境省かおり風景100選として認定されている。天王寺は関西ではよく知られているが関西以外では知名度は低い。だが2014年3月7日に高さ300メートル、日本一のあべのハルカスがグランドオープンし、四天王寺との新旧観光地のギャップが心地よい。天王寺を西に出ると暫く複々線で新今宮、今宮駅と向かう環状線内きっての鉄道銀座である。特急や奈良、関空、和歌山へ向かう快速電車に混じりオレンジ色の環状線電車が併走する姿は鉄道愛好家ならずとも興味を引く、並行して大阪のシンボル通天閣が良く見える、環状線内で一番高い所にある駅、今宮を通過すると、日本の鉄道駅で初めて身体障害者のためのエレベーターが設置された芦原橋、環状線の中でも無骨な特異な形の鉄橋で囲まれた大正はリトル沖縄で有名。最近では京セラドーム大阪も集客で賑わう。その先、電車は大きくカーブを描き弁天町へと進む。港への玄関口でもあり、



【図3】駅観光スタンプ

現在交通科学博物館があるが、惜しまれて 2014 年（平成 26 年）4 月をもって閉館となる。跡地がどのように利用されるか気がかりである。安治川を渡ると西九条。最近では USJ へ向かうラッピング電車が駆けめぐる。駅で見られて人気があり、西九条、野田、福島と高架下付近の一杯飲み屋、商店街や福澤諭吉誕生の地など意外と知らない観光スポットが多い。そして大都会の大坂ステーションビルへと戻る。環状線は内回り、外回りで趣きが異なり味わえる。

3・環状線でめぐる大阪観光 3つの提案

上述した環状線周辺の魅力を最大限に發揮するための 3 つの提案がある。

①環状線フリー乗車券発行

現在大阪市営地下鉄では存在するが、駅間の距離が短く手軽に電車を降りて歩きまた乗り、食事が出来たりするフリー乗車券があると非常に便利でありがたい。



【図 4】環状線一周乗車料金

②環状線に沿った遊歩道公園、サイクリングロードの設置

環状線沿線は遊休地も多く、今でも手軽に散策できるが、より観光客が安心して手軽に足を止める事ができる。

③京橋を中心に“大阪のヒガシ”を積極的に開発させる

地下鉄や京阪電車と連携して、キタやミナミに負けないヒガシと呼ばれる街作りを企画していく。森ノ宮の電車区や大阪城周辺など今後再開発可能地も多く、環状線内の存在感が極めて高い最強のエリアである。



【図 5】環状線京橋行先表示

4・最後に

環状線は民間企業の JR 西日本の所有資産であるが、府民市民や大阪を愛する人の宝でもある。今回環状線改造プロジェクトを大胆的に打ち出した以上、関心のある我々は共に最大限盛り上げる事に徹したい。電車にしても軽量になった最新ステンレス電車を投入するだけでは納得できない、大阪らしい発想で、大阪観光を盛り上げ、活動を活性化させていくことを期待している。



【図 6】浪速っ子もびっくり仰天建物

【参考文献】

- ・大阪環状線の本 様京阪神エルマガジン社
- ・JR 西日本グループ 中期計画 2017～2013 年 3 月 13 日
- ・JR 西日本プロレスリース 2013 年 12 月 24 日
- ・読売新聞大阪本社社会部 大阪環状線めぐり
- ・JR 時刻表 交通新聞社
- ・交通科学博物館ホームページ
- ・ウェーブティア 大阪環状線

観光資源の宝庫、大阪の鉄道

行俊 良雄

【目的】

鉄道マニアから子供にいたるまで鉄道が好きな人の市場はたいへん大きい。関西以外の地域では2000年以降各地に駅舎の復元や鉄道関連の博物館が開館し、多くの入場者で賑わっている。一方、大阪では2014年春に交通科学博物館が50年にわたる歴史を閉じ、常時開館している鉄道関係の博物施設はなくなる。大阪以外の地域の状況とは対照的な様相である。ここ数年で大阪の鉄道観光は大きな後れを取った。

大阪には、鉄道の歴史の中に多くの潜在的な観光資源があるにもかかわらず、鉄道の地域イメージ形成、発信、活用がうまくいっていない。その原因を他の地域との比較から探り、最終的には大阪の鉄道事業者、観光行政を担われる方々へ、大阪の鉄道を観光対象にした活性化策の提言を行なうことを本研究の目的とする。

【内容】

大阪の鉄道の歴史や沿線風景から観光資源として埋もれているものに、観光的な視点から考察を加え、わかりやすい形に編集した上でアミューズメントと組み合わせるというアプローチを行なう。大阪だけ見ていては分かりにくいので東京周辺の事例と比較して、問題点を浮かび上がらせた。その問題点とは、

- 1) 大阪には鉄道関連の観光資源が多くあるにもかかわらず発信されていない。
- 2) 記念碑などでの表現は地域の観光イメージの形成にとって重要である。しかし、観光客の興味をひくものが必要で、難しいものは観光の動機にならない。
- 3) 最終的に、観光にはアミューズメントの要素が不可欠である。観光対象となるテーマをいかに楽しみに結びつけるかの方法を検討する。

【結果（今後の考察含む）】

「大阪の鉄道」というテーマの下に観光商品を開拓する場合に最も必要なことは

- 1) 子どもにも分かりやすい内容。2) 目に見えること。3) 楽しめるここと。

である。この条件から、関東で成功をおさめている鉄道関連の施設の設置は有効な手段であると考える。その際、力を入れる面は博物的施設ではなく、ジオラマ、運転シミュレーションなどテーマと結びつきやすいアミューズメントの部分である。

残された課題としては、歴史的な面からではなく、現状の観光環境から次ぎの3点について考察が必要であると考える。

- 1) 海外からの観光客
 - 2) 街と賑わいの連動
 - 3) 車窓景観の保存と創出
- 以上の課題を踏まえて、本研究の結果を大阪の鉄道観光の活性化につなげたい。

観光資源の宝庫、大阪の鉄道

行俊良雄

[1] 鉄道好きの人の市場は大きい

①市場の大きさ

②近年の鉄道関連観光施設の動向

[2] 観光対象としての鉄道 東京と大阪の比較

①記念碑

②駅舎

③鉄道博物館、保存館など

[3] 鉄道観光資源を発掘・表現して発信する

[4] 鉄道事業者、観光行政関連の方への提言

[5] 残された課題

[1] 鉄道好きの人の市場は大きい

①鉄道はいろいろな場面で扱われている。

・TV番組…「世界の車窓から」

・雑誌…「日本鉄道旅行地図帳」

東洋経済、週刊ダイアモンド等経済雑誌

・映画…「阪急電車」

・小説…西村京太郎など

・歌謡曲…多数

・鉄道関連博物館…大宮「鉄道博物館」

名古屋「リニア・鉄道館」

・こども…プラレール、きかんしゃトーマス

[1] ②近年の鉄道関連観光施設の動向

1. 関西以外の地域

- ・2000年(平成12年)東急・旧田園調布駅復元
- ・2003年(平成15年)旧新橋駅停車場復元
- ・2003年(〃)門司・九州鉄道記念館開館
- ・2007年(平成19年)大宮・鉄道博物館開館
- ・2011年(平成23年)名古屋・リニア鉄道館開館
- ・2012年(平成24年)横浜・原鉄道模型博物館開館
- ・2012年(平成24年)東京駅復元工事完成

2. 関西の現状

- ・2014年(平成26年)4月 大阪・交通科学博物館閉館予定
- ・2016年(平成27年)京都鉄道博物館開館
(梅小路蒸気機関車館と一体的に整備する予定)

[2] 観光対象としての鉄道—東京と大阪の比較



旧新橋停車場復元(2003年)



初代大阪駅(1874年)
「写真で見る大阪市100年」より引用



横浜市営地下鉄藤田駅前
地下鉄1号車搬入の地



大阪地下鉄車両搬入場所
本町・南御堂前



鉄道創業の地 記念碑
横浜・桜木町駅前



新橋駅前の歌碑
「鉄道唱歌」



地下鉄創業者 早川徳次
日比谷駅



東京駅 新幹線開業碑

[2] (1) 鉄道関連記念碑

1. 数量比較

大阪府 東京都

21 67 (参考 神奈川県50)

2. 東京の記念碑設置の特徴

・大きな歴史的事象の碑はほぼ整備されている。

鉄道発祥／地下鉄開業／新幹線開業

・古い事象であっても近年に設置している。

新幹線発祥の地・鴨宮(2006年)

3. 鉄道に因んだ歌の碑がある。

「鉄道唱歌」の碑／「あゝ上野駅」の碑

[2] (2) 構築物・駅舎

1. 東京



東京駅復元(2012年)



旧新橋停車場復元(2003年)



東急・田園調布駅復元保存
(2000年)

2. 大阪

- 多数の古い駅舎は老朽化による建て替え、高架化による解体で現存しない。
(しかし、東京の復元は近年のこと)
- 南海電鉄には古い駅舎や構築物が残っている。
浜寺公園駅 堺市HPより
諏訪ノ森駅西駅舎、浜寺公園駅は場所を移転→保存。

[2] (3) 鉄道博物館・記念館・資料館

1. 全国の鉄道博物館・記念館・保存施設の数

(白川淳著「全国鉄道博物館」JTBパブリッシング・2007年)
2007年以降開館、閉館を調整。個人の保存車両を省く。

・162施設 (最多は北海道の50)

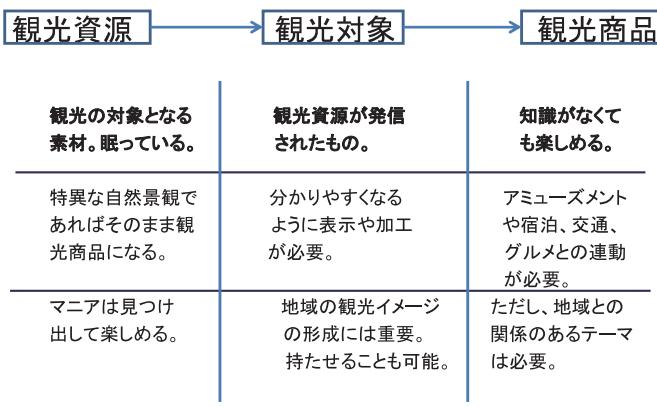
2. 大阪と東京の比較

大阪	東京
3	10

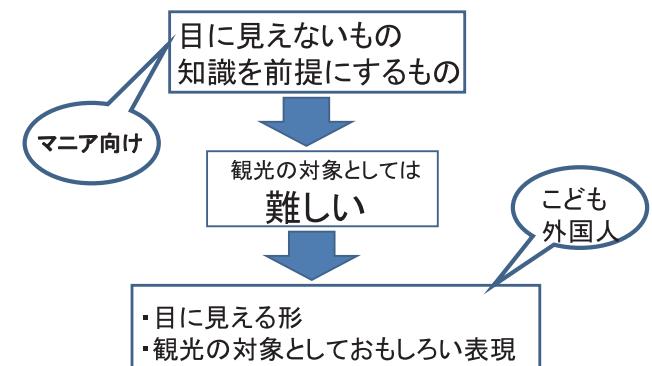
3. 大阪の施設

- 交通科学博物館(弁天町) 2014年閉館予定
 - 大阪市市電保存館(北加賀屋)イベント時開館
 - 阪急電鉄ミュージアム(正雀) "
- よって大阪で常時開館している施設はなくなる。

[3] 鉄道観光資源を発掘・表現して発信する



[3] 鉄道観光資源を発掘・表現して発信する



「鉄道のまち」

かつて国鉄の大きな操車場があった。

新潟県新津

鉄道資料館

(休館中)

年間1万人未満

博物館

マニア向け

埼玉県大宮

鉄道博物館

2007年開館

年間100万人

博物館+アミューズメント

子供も楽しめる

大阪府吹田

鉄道資料館

(計画中)

* 2016年
京都鉄道博物館

[3] 鉄道観光資源を発掘して発信する

①参考事例…埼玉県大宮・鉄道博物館

・鉄道のまち大宮(大宮操車場)という場を背景にテーマ性を持たせている。

・博物施設ではあるが、子供向けのアミューズメント施設。

・特定の施設に人気が集中している。

巨大ジオラマ/運転シミュレーション/記念撮影/ミニ列車

・休憩ルームの大きな窓の外に東北新幹線が走る。

・周辺地域との関係

・大宮～鉄道博物館への遊歩道の整備

・鉄道関連の物販業が集まりだしている。



大宮・鉄道博物館 (2014.1.13<祝>12:30頃行俊撮影)

博物館の中でも子供が楽しめる特定のコーナーに人が集中



②参考事例…大阪府吹田市

吹田市は「鉄道のまち」で観光をまちおこしをめざしている。

- 1) 駅名変更回数日本一の駅
阪急千里線 関大前駅 変更回数6回
 - 2) 日本一安い初乗り料金
北大阪急行 一区間 大人80円
 - 3) 世界一長いモノレール
大阪モノレール →日本一に変更 (中国・重慶に抜かれたとのこと)
大阪空港駅～門真市駅間21.2km
 - 4) IEEEが電気・電子技術やその関連分野における歴史的偉業を認定。
 1. 世界初の鉄道自動改札システム—阪急北千里駅設置
 2. 東海道新幹線
- (参考事例)
大阪以外での事例としては次のようなものがある。
・日本最北端の駅…稚内 他に東西南北すべて存在
・日本鉄道最高地点駅…野辺山(長野県)
・日本一長い駅名…南阿蘇水の生まれる里白水高原駅
- 2013年10月撮影→ 2013年12月撮影



[4]鉄道事業者、観光行政関連の方への提言①

鉄道観光資源を顕在化させ、発信する。 記念碑／駅舎などの構築物／イベント

地域の観光イメージの形成

- ・歴史的事象…「～の発祥の地」
「日本最古の～」
「～があった場所」
- ・順位を誇れるもの…「日本一～」
- ・映画・小説の舞台になった場所。

観光的な視点から興味をひくもの、おもしろい形状

[4]鉄道事業者、観光行政関連の方への提言②

大阪に鉄道アミューズメント施設の設置

各地で鉄道博物館が盛況なのに…

大阪には常設館がなくなる。

博物施設よりも子供や外国人が楽しめる
アミューズメント施設

(ジオラマや運転シミュレーションに地域のイメージを重ねる)

[5]残された課題

①アジアからの観光客への対応

- ・アジアの鉄道—日本製の車両の輸出
 - ・自国の車両を生産国の日本で見る。
 - ・台湾／韓国／香港／シンガポール／タイ
- ・サブカルチュアからの切り口
 - ・ジオラマに登場するフィギュア
 - ・鉄道に関連するコスプレ…記念撮影

②鉄道アミューズメント施設と町の賑わいの連動

- ・鉄道関連のショップ(模型、古本)
- ・グルメ

③車窓景観

- ・沿線景観の保存と新規景観の創出。

おもな参考文献

- ・「全国鉄道博物館」白川淳 JTBパブリッシング(2007年)
- ・「集客都市」橋爪紳也 日本経済新聞(2002年)
- ・「熱き男たちの鉄道物語」橋爪紳也 プレーンセンター(2012年)
- ・「鉄道・珍・名所三十六景(関西編)」所澤秀樹(2003年)
- ・「大阪・京都・神戸私鉄駅物語」高山禮蔵 JTB(2002年)
- ・「首都圏鉄道大好き」アミーカ メイツ出版(2011年)
- ・「南海電気鉄道百年史」南海電鉄編(1985年)
- ・「東京鉄道遺産(上)」山田俊明 けやき出版(2010年)
- ・「東京鉄道遺産(下)」山田俊明 けやき出版(2010年)
- ・「鉄道会社の経営 ローカル線からエキナカまで」佐藤信之 中央公論新社(2014年)
- ・「ビールが村にやってきた」吹田市立博物館図録(2012年)
- ・雑誌「大阪人」鉄道王国・大阪2012年1月号大阪都市工学情報センター

生駒山系と歴史路の観光資源展開

越智 賢一

【目的】

かつて西に海を臨んだ生駒山系の存在は、自然が生み出した景観のみならず、その道筋が古街道となり、そこには、神光の息づく神秘な生駒山の不思議な力・自然の力をバックボーンにした人の営み・文化が連綿と続き、河内の歴史的な宝となった。

そこで、さらに磨きと輝きのために、大都市に見られるメジャーなイベントやフェアによる観光集客に留まらない郊外型観光空間を創造し、生駒山系西麓中部エリアの市域を越えた広域的な統合した仕組みづくりを推進させた、住みたい・住み続けたいエリアを構築させるとともに、交流人口・定住人口の増大による人口減少傾向の歯止めとしてのエリアづくりを広域型連携観光として展開させる。

【内容】

生駒山系西麓の河内平野をまるごと観光空間にするにあたり、中部エリアの四條畷市・大東市・東大阪市の3市域歴史路（東高野街道、古堤街道、暗越奈良街道、飯盛山、野崎参詣路）を視察し、歴史路とその周辺の観光資源の調査をした結果、悠久のロマンを醸し出している3エリア（飯盛山龍望とウェルネス、野崎まいり参詣、生駒山系パワースポット）に絞って、魅力ある観光資源（神社仏閣、祭り・伝統芸能、巡礼・民話、まち並み）で仕掛けて、広域的な観光まちづくりを展開させるために見たい価値・行きたい価値・住みたい価値を共生し、ブランド作りの一歩とする。

そのためには、単独ではなくエリア全体の住民主導と行政の取組が最重要で、住民を取り囲む広域エリア行政と統合的な仕組みづくりが成功の鍵となるが、地方分権化が進み、地域間競争（地域・観光力の温度差等）が激しいなか、地元の人々の理解と地域の連携や地域が主体となったムーブメントを起こしていくというプロセスが大切となった。

そのために、どのようにして地元や地域の人々を巻き込み、地域が主体を持ってどのように展開を図るかにあるため、まずは、地元に目を向け、地元地域の結束となるものを探求して、心から感動しあえる良好な評価と自信と誇りを持った連携した観光資源をモデル化し、その後、他市域との広域連携への展開を推し進めることとした。

【結果（今後の考察含む）】

地元では、先人が積み重ねてきた地元ならではの特色ある文化遺産と共生し、それに感謝して伝統文化として大切に受け継ぎ、次世代へときちんと伝え、市域全地域の人々が盛り上がり、連携しあえる観光資源は、住民・行政連携型の「だんじり」と位置づけた。それを持って、行政ほか関係各位と各種プロモーションを展開した市民・行政一体型観光推進の「だんじり観光行政」のモデルを作り、地域・観光力の向上を今後の課題とする。

1. はじめに

太古の昔より、大阪東方の生駒山系西麓での人の営み・文化が連綿と続いている河内平野をまるごと観光空間にする。そこには、河内湾、河内潟、河内湖へと変貌を遂げる間も、生駒山系西麓の山の根を守り続けた、まさに海岸線道路としての古街道があった。

そこでの数々の観光資源を統合させ、歴史、文化、自然を活気と賑わいで創造、調和、共生させる永続的な地域一体連携型観光空間に展開させる。

そのために、生駒山系西麓中部エリアの四條畷市・大東市・東大阪市界隈の水陸をはじめ、歴史観光資源を再掘し、磨き輝く観光空間を統合させる。

まずは、生駒山系西麓の四條畷市・大東市・東大阪市界隈を中心に、

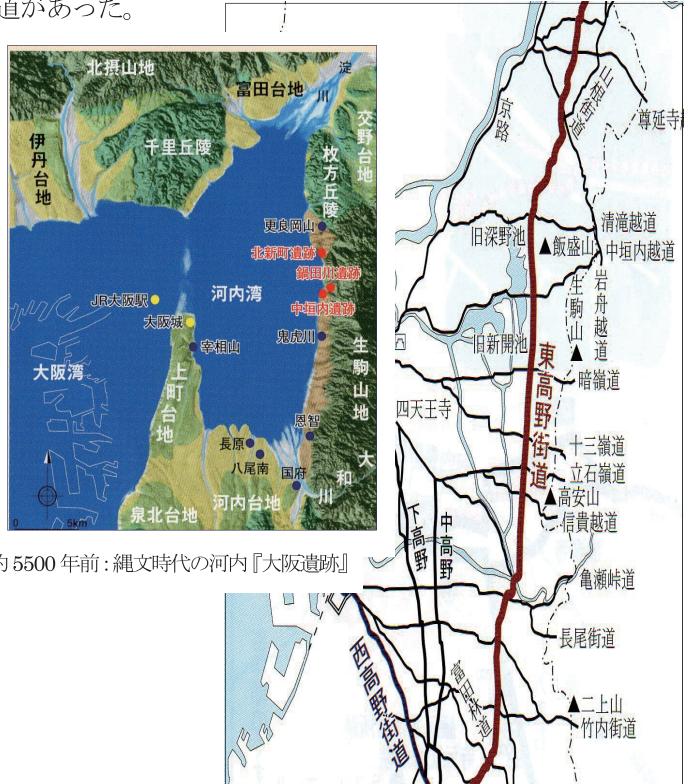
陸路として ①東高野街道

②古堤街道

③生駒山系一暗越奈良街道・飯盛山

水路として ④寝屋川支流ー野崎参詣路

を調査した。



2. 生駒山系西麓中部エリアの観光資源

古街道（歴史路）とその周辺の観光資源の把握と情報収集を実施した結果、

河内の街道：「歴史の道調査報告書」

悠久のロマン～いこまの神秘を醸し出している下記

3エリア

①飯盛山龍望とウェルネスエリア（飯盛山・四條畷神社）

②野崎まいり参詣エリア（野崎観音）

③生駒山系パワースポットエリア（石切剣箭神社・

枚岡神社・瓢箪山稻荷神社）

に焦点を絞り、観光資源を選出した。

①産業観光：ものづくり日本一工場萌え～生産現場の見学とものづくり体験

②神社仏閣観光：絵馬・お守り・朱印・おみくじ・パワースポット・占い

③食文化観光：B級グルメ・バル・郷土食・学食

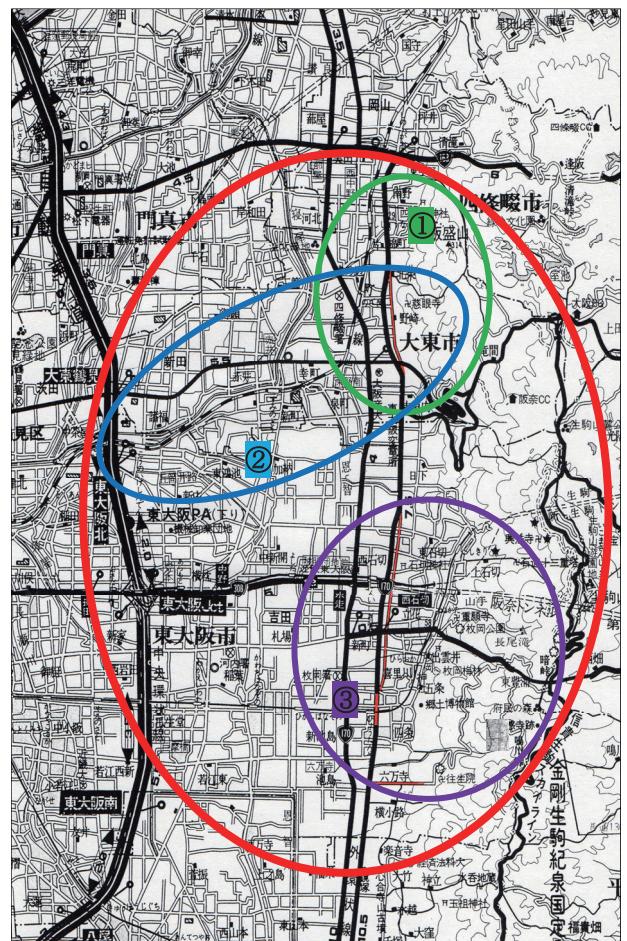
④お土産観光：土地柄の一品・郷土玩具

⑤祭り・伝統芸能観光：だんじり・神事・盆踊り・初詣・とんど焼き

⑥巡礼・民話観光：伝説と民話の体験・語り部

⑦まち並み観光：参詣道・水路景観（生駒山・寝屋川・観音井路）・治水公園・里山・遺跡・古墳・原始蓮・フットパス・ハイキング路

⑧その他：ご当地キャラ・文学者・偉人伝・文化人・記念館



3. 広域型連携観光化への取組にあたっての障壁

独自性が高く、地域住民との触れ合いや興味深い企画の提案、究極の目的である定住化までも考えられるような体験などを網羅しないと文化財や神社仏閣の見学だけでは連携の持続は難しい。

住民は観光客の増加だけでは動かず、経済的な動機（直接的な経済効果）が強く働くため、地元住民の理解と参画の場が必要で、地元への経済波及効果や財源の確保策も重要な課題である。

そのためにも、単独ではなく、エリア全体の住民主導と行政の取組が重要であり、住民を取り囲む広域エリア行政と統合的な仕組みづくりとの一体化が成功の鍵となるため、多方面に働きかけが必要となった。

そこで、地方分権化が進み、地域間競争（地域・観光力の温度差）が激しいなか、連携を組むことで、他の自治体との差別化を図り、広域エリアのブランドイメージを高めつつ、定住人口増をめざすことを提言する。

まずは、三方（①見て、②来て、③集まって）から切り込み、広域的に永続的に市域を越えた統合的な仕組み作りを一体化し、住みたいエリアづくりを構築していく。

しかし、生駒山系西麓エリアの広域連携による観光化と地域づくり（地域・観光力の均衡化、広域的なエリアのブランド創出を含む）については、持続的な取組みとして展開していくためにも、まずは、地元の人々の理解と地域の連携、そして地域が主体となったムーブメントを起こしていくというプロセスが大切となった。

のために、どのようにして地元や地域の人々を巻き込み、地域が主体性を持って、どのように展開を図るかにあるため、まずは、地元に目を向け、地元地域の結束となるものを探求し、心から感動しあえる良好な評価と自信と誇りを持った連携した観光資源をモデル化し、その後、他市との広域連携への展開を推し進めることとした。

4. 実現化への提言～地元市での地域連携型観光化への取組みモデル案

生駒山系西麓中部エリアの地元大東市内での各地域との連携を促し、地元一丸でレベルアップに取り組み地元内広域連携として成功すれば、将来、他市域との連携が可能である。

それでは、地元の宝として、守り、継承し、地元の魅力の向上ひいては活力の向上を担うものは何かと言えば、それは、地車：だんじり（祭り）

人の営み・文化が連綿と続く生駒山系西麓の地元で、自然と共生し、その恵みに感謝の心を祭りとして心一丸となって100年以上も継承している誇りと愛着は、地域を越えたこれからの郷土愛を培うにふさわしい観光資源と位置づける。

先人のみなみならぬ苦労による100年伝承はただものではないことを誇りとして、地域結束をすれば、地元地域連携の魅力ある観光資源としてアピールできるとともに、だんじり・行政関係各位への打診とプロモーションを推進する。



だんじり祭り

5. 魅力ある地域連携型観光資源「だんじり」とは

地元大東市内には、30台以上のだんじりがあり、秋祭りには、市内のいたるところで目にすることができる。

しかし、祭りの日程が重なるため、一度すべてを見ることはできず、今日でも社会情勢の変化や氏子意識の薄れ、各家族化・少子化等から、だんじりの曳き手の数も減少傾向にある。

「動く美術館」、「動く歴史絵巻」といわれるだんじりは、基本的に神社の祭礼で曳かれているので、その神社の氏子が曳いていることになり、運営も町・村・自治会などの組織等が中心になったりで、地域により様々である。

毎年10月20日前後の土・日曜日、市内各地で秋まつりが開催され、だんじりを曳行したり、だんじり囃子・龍踊りなどが披露され、徐々に、『住道だんじりまつり』、『四条ふるさとまつり』、『南郷まつり』、『南大東連合パレード』等、4つのだんじり祭りのように近隣地区で集合するようになるが、同じ日に開催されるため、一度すべてを見ることはできません。

すべてのだんじりが同一会場に会すれば、迫力満点の
『大だんじり祭り』として、地元大東の光り・誇りとなる。

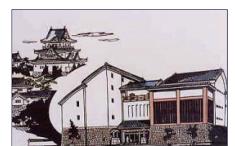
勇ましい掛け声や軽快な鉦の音を響かせながら、だんじりが市内を練り歩く光景は、江戸時代後期より、連綿と受け継がれてきた伝統であり、だんじりへの愛着と誇りを持つことができ、住民の心に流れる故郷大東を結び付くので、この祭りを将来に伝承しなければならない。



だんじり曳行

6. 実現化への具体的な展開策と今後の課題

そこで、「だんじり」をより魅力ある『だいとう観光資源』とするために、
①だんじり会館・会場等の設置：だんじり常設展示、歴史、映像視覚・体験コーナー、情報交流・発信
②有形もしくは無形文化財等指定：市独自の設定・サポートによる市ぐるみの取組み
③だんじり大祭りの開催：秋祭り（祭礼）の他、春～夏時期の大祭り等複数開催
④だんじり祭り観戦ツアーと曳行体験：誰でも参加の体制導入による地域一体化
⑤だんじりまつり連合協議会・保存会の再編：オール大東の結束への組織化
⑥だんじりふるさと納税（協賛金）：愛着と誇りへの協賛・公募・特典 等、



岸和田だんじり会館

行政ほか関係各位への打診と各種プロモーションを展開した市民・行政一体型観光推進の「だんじり観光行政」を今後の課題とする。

先人が積み重ねてきた地元ならではの特色ある文化と共生し、それに感謝して、伝統文化として大切に受け継ぎ、次世代へときちんと伝えるために、市域全地域の人々が盛り上がり、連携しあえ、地元人の絆となった観光資源となれば、地域・観光力も向上し、市域を越えた観光の広域的統合に繋がる。

<参考文献 >

- 『近畿地方の歴史の道（2）大阪①②』大阪府教育委員会、海路書院、2005年
『生駒山 歴史・文化・自然にふれる』大阪府みどり公社、ナニヤ出版、2010年
『観光振興と魅力あるまちづくり』佐々木一成、学芸出版社、2008年
『観光を切り口にしたまちおこし』臼井冬彦、相模書房、2013年
『岸和田だんじり讀本』江弘毅、プレンセンター、2007年
『河内文化のおもちや箱』水野正好、批評社、2009年
『生駒の神々』宗教社会学の会、創元社、2012年
『大阪アースダイバー』中沢新一、講談社、2012年
『大東のだんじり』大東市立歴史民俗資料館、2013年
『大坂 摂津・河内・和泉』今井修平・村田路人、吉川弘文館、2006年

住吉大社周辺における観光まちづくり戦略

山田 重昭

【目的】

- ・観光地・住吉の復活を第一目標に、次に現代的トレンドを取り入れた次世代に続く観光振興を第二目標において、住吉ブランドの創出を図る。
- ・住吉の観光振興の成功は地域の活性化にとどまらず、地域住民のまちに対するリスクを醸成し、将来の地域コミュニティ発展の基礎になりうる。

【内容】

以下の各項目を観光戦略として提言する。

- ・住吉大社の存在だけに頼らず、神社とともに発展してきた周辺地域の魅力と一体となってアピールするようなものであること
- ・回遊性を活かした町並み観光であること
- ・門前の名物、名所など、伝えられてきた地域資源を活用すること
- ・伝統に命を吹き込む現代的なデザイン、発想によって古さと新しさが同居する拠点づくりとイベントの実施
- ・行政単位に関わらず地域住民を主体とした地域横断的なコミュニティ運動であること
- ・何度も繰り返し地域を訪れてくれるファンを増やすための交流を主体としたものであること

【結果（今後の考察含む）】

- ・支持の広がり、市民ネットワークの形成
- ・来街者の変動を調査（飲食店リサーチ、公共交通機関利用者調査など）。
- ・住吉を住んでみたいまちにする

1. 研究目的

本研究は、現在大阪市住吉区と住之江区に位置する住吉大社周辺の地域振興を、観光まちづくりの視点で提言を行うものである。

周知のように、住吉大社は1800年の歴史を誇る神社で、全国に約2,300あるといわれる住吉神社の総本社であり、大勢の参拝客が殺到する初詣の光景を思い起こす人も多い。

しかし、この住吉大社を中心とするエリアが大阪を代表する観光地として知られているかというと、甚だ心許ない状況である。正月の境内の活気が継続的な地域のにぎわいに結び付いていないのである。

現在、多くの地域社会では産業の空洞化、コミュニティの希薄化などの問題を抱えているが、同エリアも同様で、地域の活性化を図る必要性が指摘されている。本研究の狙いとする観光地・住吉の復活が、これらの問題解決にむけた一助となることを願う。

2. 住吉観光の歴史

古来、海の神、歌の神として皇族・貴族から武士・庶民にいたるまで多くの崇敬を集めた住吉大社を中心にまちが形成され、多くの人を当地に呼び込んだ。

「住吉の松」は歌枕として多くの歌が詠まれる都人の憧憬となり、「源氏物語」澪標巻では光源氏の住吉詣が描かれた。中世には熊野詣の途上として多くの巡礼が参詣した。住吉明神の名は広く知られ、この中から「高砂」「雨月」といった謡曲やお伽話の「一寸法師」が生まれた。住吉祭りの壮大さは耳目を集め、堺に滞在した宣教師たちは本国にその様子を報告している。近世に入ると新たに海側の紀州街道が発達し、街道沿いの門前町の様相を呈してくる。料亭や土産物屋が並ぶ住吉新家と呼ばれる盛り場が発達しにぎわった。「住吉名勝図会」、「摂津名所図会」といった住吉界隈を案内するガイドブックも出版された。住吉の浜は潮干狩りのメッカとなった。「東海道中膝栗毛」には住吉名物として、「金魚、酢、蛤、ごろごろ煎餅、唐がらし、昆布、竹馬、糸ざいく」が挙がる。近代になって鉄道が敷設されると、大阪周遊のルートとして組み入れられ、当時の大阪観光案内マップやPR映画「大大阪観光」にも大阪を代表する名所の一つとして紹介されている。

3. 現状

初詣に参拝客が殺到する光景は有名であるが、平常は門前も閑散としている。日が暮れると全く人影はない。神社を訪れる人の多くは本殿を参拝するだけでその他の境内地や周辺のまちにはその足を向かない。住吉大社の発信力がエリアの魅力に繋がっていないのである。地域住民も地元の文化・謂われを知らず関心も薄い。そのため街道沿いの歴史的建造物がさしたる関心も呼ばず消えつつある。関心の薄さはまちの活気を奪う。まちの中心で行政区が分断されているため、個々の地域活性化の取り組みがまとまらず、まちぐるみの活動へ結びついていない。

4. 衰退の原因

都市ツーリズムは買い物・食事・遊歩を主体とした日常性を味わう体験型観光である。中でも寺社巡りは物見遊山という言葉が表すように、元々信仰そのものより寺社周辺の街並みを巡り名物・名所を楽しむ町並み観光であった。こうした旅のあり方が衰えたのは、一つにはモータリゼーションの発達がある。目的地へ直接移動できるクルマは、観光のあり方を面から点へと変えてしまった。クルマによるアクセスの利便を図るため確保した広い駐車場がこうした要素をますます強化してしまった。住吉の場合はこの他に、大阪都市圏として市街地化したこと、人口構成、住環境他の変化などが要因として考えられる。

5. 住吉の地域特性

まず、まちのサイズが徒歩移動に最適で回遊性に優れている。紀州街道、熊野街道、磯歴津道といった旧街道が交差する交通の要衝で、街道沿いを中心に古い街並みが残っている。南海電車や大阪に唯一残る路面電車として存在感を發揮する阪堺電車といった交通網も発達しており、アクセスの良さも回遊性の強みを後押ししている。

個性が光る各エリア。①古い街並みで和を感じられる住吉大社周辺、②大阪市内にあって緑が豊富で閑静な住宅地の帝塚山、③様々な取り組みで活気を維持する粉浜商店街、など。

三点目として地域のポテンシャルが豊富なこと。様々な文芸の題材になった他、近代以降多くの文化人や芸人が数多くここに住み、文化的基層が厚い。名所・名物も住吉大社を中心に数多く存在する他、一年を通して様々な祭りや伝統行事が存在している。

四点目として住吉大社を中心とした中域・広域な地域ネットワークが図れること。堺・田辺・平野・阿倍野・天王寺などは歴史的にも結び付きが強い。

6. 観光振興のための基本スタンス

基本スタイルはまちの資源をいじらず活かすこと。前項で挙げた特性を活かし、歩くことを主体にした地域との交流を楽しむスタイルとする。住吉大社を中心とした和のカラーでカルチュラル・ランドスケープを保持する。エリアへのアクセス手段として、レトロな雰囲気を漂わす阪堺電車を強調する。これらにデザイン性を取り入れ、歴史・伝統に新たな視点を盛り込むグランドデザインを描く。

もう一点はサステイナブルな活動とするため、地域住民主体の運営方式でまちづくり活動の一環として取り組む。そのためどれくらいの住民を巻き込めるかが成否のカギとなる。地元への関心を呼び覚ます「域内での発火」と、集客を図り交流人口の拡大を目指す「域外への発信」の二方面拡張方式とする。観光戦略が都市住民の誇りを復権し、結果として地域産業創造のインキュベーターの役割を果たすことを期待する。以上をまとめてコンセプトは「土地の物語を継ぐ」としたい。

7. 提言

住吉大社周辺の観光戦略として、以下の点を提言する。

・アメニティの充実

サインの整備、トイレ・休憩所の設置、まち歩きマップの常備、常設のポータルサイト（例えば住吉大社境内や住吉公園駅駅舎を活用）、遊歩空間の確保と車両の通行規制、電線の地中化、町家のコンバージョン誘導策、レンタサイクルの導入

・親和性を育むイベントの実施＋場づくり

○文化・芸術を体験する月例の域内循環・季節循環型イベントの実施

住吉大社境内における和を前面に出した地域ゆかりの芸能（能、落語、歌会…）、
住吉公園におけるアート・音楽イベントとオープンカフェ
まちそのものの面白さをアピールするイベント（まち歩き、バル）

・コミュニティ・ベースドな体制づくり

地域住民主体の観光ラウンドテーブルの開催

・エリアネットワークの構築

隣接 住吉大社→帝塚山、安立、住吉公園、高燈籠、粉浜商店街へと続く流れ

近隣 住吉→堺、田辺、平野、阿倍野、天王寺：広域 全国住吉サミット

■参考資料

- 大河直躬・三松康道編著[2006]『歴史的遺産の保存・活用とまちづくり』学芸出版社
大社充[2013]『地域プラットフォームによる観光まちづくり』学芸出版社
大阪あそ歩まち歩きマップ集町衆会議[2011]『大阪あそ歩まち歩きマップ集』その1～3 大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会
岡本伸之編[2001]『観光学入門』有斐閣アルマ
栗本智代[2013]『カリスマ案内人と行く大阪まち歩き』創元社
桑田政美編[2006]『観光デザイン学の創造』世界思想社
小長谷一之・福山直寿・五嶋俊彦・本松豊太[2012]『地域活性化戦略』晃洋書房
佐々木雅幸[2001]『創造都市への挑戦』岩波書店
庄野英二[1965]『帝塚山風物誌』垂水書房
白井伊之助編[1980]『住吉界隈いま・むかし』『住吉界隈いま・むかし』刊行委員会
住吉大社編[1977]『住吉大社』学生社
住吉大社編[2008]『遣隋使・遣唐使と住吉津』東方出版
茶谷幸治[2008 a]『まち歩きが観光を変える』学芸出版社
茶谷幸治[2012]『「まち歩き」をしかける』学芸出版社
日本交通公社[2013]『平成24年度観光実践講座講義録 人を活かし、まちを活かす観光の考え方』日本交通公社
橋爪紳也監修[2004]『大阪力事典』創元社
藤原秀憲解説[1987]『住吉名勝図会』国書刊行会
真弓常忠[2003]『住吉信仰』朱鷺書房
宗田好史[2009]『創造都市のための観光振興』学芸出版社
山下晋司編[2011]『観光学キーワード』有斐閣
大阪市都市工学情報センター[2010]「特集住吉詣」『大阪人』vol. 64
新風書房[2011]「特集すみよし～住吉大社 1800 年」『大阪春秋』No. 142
<ウェブ>
住吉大社 <http://www.sumiyoshitaisha.net/>

来て見て体験！　だいがくと夙のまち勝間千軒

中塚 義隆

【目的】

西成区内にある勝間（こつま）地域（旧勝間村・玉出町、現玉出・千本・岸里、以下「勝間」という。）は観光にはほど遠いところであるが、かつては勝間千軒と称された経済力豊かな土地柄で、生根神社のだいがくや勝間南瓜などは一般にも知名度を有している。この地域の素材を掘り起こすことで、それらを観光ひいては地域の活性化につなげることを目的として、本研究を行うこととする。

【内容】

観光の素材となる条件としては、人が来る、集まる、人に受け入れられるものがあることが基になる。勝間においてこれらに該当する素材を探してみたところ、素材は多岐にわたり、勝間は歴史もあり、伝統の文化を持っているところであることを発見した。

これらの観光の素材について各条件への該当性を検討した結果、複数以上の条件に該当すると判断したものは、歴史的なものであることに加えて、興味を引くものやまつりなど日常的でないものを取り合せた素材で、このうち特に環濠集落、生根神社のだいがく、勝間夙（こつまいか）の三つを主要な観光素材として取り上げることとした。

環濠集落の環濠は消滅し、勝間夙も廃絶しているため余り知られていないが、見聞きすることで興味を引くと思われ、また、だいがくは勝間の歴史と文化を代表するもので、地域のシンボルとして観光の素材に欠くことのできないものである。

【結果（今後の考察含む）】

これらに玉出遺跡(出土品)、勝間街道及び生根神社境内にある御牛天神、勝間南瓜塚などを加え、勝間のまちの歴史と文化を体験する形での観光化を提案し、次のルートを設定する。

玉出遺跡(出土品) → 勝間街道 → 環濠集落 → 生根神社・だいがく → 勝間夙

観光化にはこれから整備を必要とし、対処すべき課題も多いが、観光化を通じて地域の活性化をめざしていくためには、関係先をはじめ地域の各種団体、官公署等の理解と協力を得、勝間の歴史と文化をたどる上での種々の取組を行っていく必要がある。

勝間の歴史と文化をベースとして、観光と集客ひいては地域の活性化につなげるべく、地域の方々の理解と協力を得ながら取組を進めていきたい。

1 観光の素材となる条件

観光の素材となる条件としては、次のような要素が考えられる。

- A 見るもの・見せるものがある
- B 歴史的・伝統的なものがある
- C 興味を引くもの・珍しいもの・そこにしかないものがある
- D 日常的でないものがある
- E 雰囲気が良い
- F おいしいもの・味わうものがある

2 観光の素材の選択

勝間にある素材として下表に掲げるものが考えられる。これらについて上記の各項目への該当性を検討する。

歴史関係		生根神社関係	
玉出遺跡、岸里遺跡 (出土品)	A B	生根神社(沿革)	B
環濠集落(環濠跡・地蔵尊)	B C	だいがく(だいがくまつり・だいがく音頭・だいがく踊り)	A B C D
勝間(玉出)4ヶ寺	B	御牛天神	B C
勝間街道	B	浜村淳句碑	C
玉出変電所	B	勝間南瓜まつり	B D
勝間音頭、勝間踊り	B	勝間南瓜塚	B
勝間特産品関係		その他	
勝間南瓜	B C	有名店：会津屋(たこ焼き)、たからや(鈴焼かすてら)、玉出木村屋(酒種あんぱん) ピエロ(喫茶)	F E
勝間南瓜焼酎(ニューヨーク)、饅頭(京屋本舗)、飴・最中(豊下製菓)	C	グルメ：Gennji(和洋創作料理)、象屋(お好み焼き)、越中屋(すし)、Revo(肉料理)	F
勝間凧	B C	諸業種：かつら 味噌	C F
勝間木綿	B	芸人：5代目桂文枝、西川きよしらが以前居住	C

検討を行った結果、複数以上の項目に該当すると判断したものは、玉出遺跡(出土品)、環濠集落、だいがく、御牛天神、勝間南瓜、勝間南瓜まつり、勝間凧で、これらは歴史的なものに加えて興味を引くものやまつりなど日常的でないものとの取り合わせとなった。

3 選択した素材

これらのうちから、主要な観光素材としては次の三つを中心に取り上げることとする。

(1) 環濠集落

中世からの環濠集落は大阪では堺、遠里小野、平野、喜連、桑津、八尾、久宝寺、萱振などに例があり、濠で囲まれた集落の成り立ちに興味が持たれる。また、勝間が戦国時代に合戦の舞台にもなり、石山合戦に関わっていたと推測されることについても関心を惹き起こす。地蔵堂は地元でも環濠集落の出入口の門にあったものとしては知られておらず、この点についても興味を引くところである。

(右上 勝間村環濠集落・「勝間村の誕生・発展の参考資料集」

尾崎正臣、右下 石山本願寺籠城の図(部分)・『座談会玉出を語る会の記録』西成区役所)

(2) だいがく

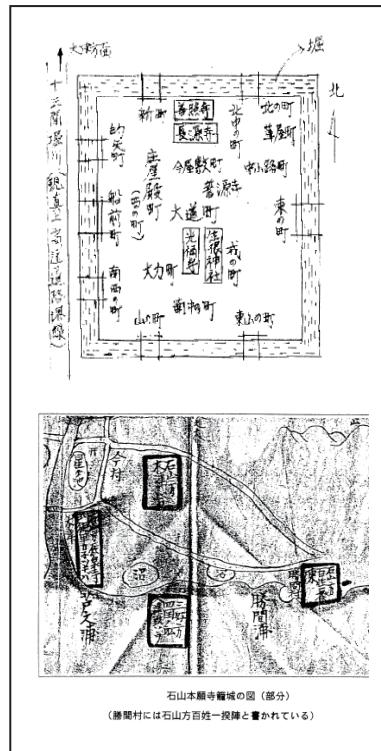
だいがくは1972年(昭和47年)に大阪府指定有形民俗文化財第1号として指定された。芯棒を立て、横棒に多数の提灯を吊るす形態で、夜に灯が入ると一段と壮観である。全国数か所に類例を見るが、この形態と同じものは木津村(浪速区)、鷹合村(東住吉区)、今川村(平野区)、堀村(住吉区)で見られた。現在は勝間の玉出でしか見ることはできず、貴重なものとして評価され、地域のシンボルとなっている。

また、だいがくのある生根神社は明治の廃藩置県に伴い、黒田藩の社殿(戦災で焼失)、御牛天神を譲り受け、また、大阪の伝統野菜の一つである勝間南瓜に因む勝間南瓜まつりが冬至の時期に開催され、無病息災を願う人々が多数お参りしている。

(3) 勝間兜

兜の胴体の絵は多色刷りで、これに風袋を付けた構造となっているが、絵柄も非常にユニークで、視覚に訴え、人目を引く。歴史も江戸時代に遡り、住吉大社参詣の道中に売られていたが、シカゴ万博、パリ万博に出品され、海外にも輸出されるなどしてその価値が認められ、勝間村は国際的な特産品を有していたと言える。

類似の兜は愛知県や東京都にも見られるが、勝間兜は胴体の絵が洗練され、それだけでもコレクションの対象になっている。また、胴体の絵は宣伝文句



が入るようにデザインされたものもあり、いかにも商人のまち大阪を体現するものである。

(前頁上 金鶴・木村薰復元 大阪歴史博物館、同下 蝶・『勝間凧の話』木村薰、右 大根売り・同前)



4 勝間のまちの歴史と文化の体験

環濠集落、だいがく、勝間凧、これらは勝間の歴史と文化を代表するものであり、これらを中心に玉出遺跡、勝間街道及び生根神社境内にある御牛天神及び勝間南瓜塚を加え、体験型での観光化を提案し、ルートを設定する。

- 玉出遺跡(出土品)** ○玉出中学校、地下鉄玉出駅で展示見学

勝間街道 ○街道沿いウォーキング

環濠集落 ○環濠跡ウォーキング ○勝間(玉出)4ヶ寺・延命地蔵尊見学

生根神社・だいがく

 - だいがくのDVD放映
 - だいがく踊りと音頭(歌・太鼓)
の実演と体験
 - 御牛天神及び勝間南瓜塚の説明

勝間兜 ○勝間兜の展示鑑賞
○勝間兜の製作または兜揚げ





5 今後の課題

実施にあたり、今後整備を必要とするものが多々あり、観光化に向けての種々の取り組みが必要である。

- | | | | |
|-----------|-------------------------------------|------------------------|-------------|
| まち巡り全体 | ○推進体制の形成 | ○各種団体との連携 | |
| 玉出遺跡(出土品) | ○案内板の設置、ガイドの育成、ガイドブック・地図・年表・絵葉書等の作成 | ○展示コーナーの整備 | |
| 環濠集落 | ○環濠の位置・勝間街道・勝間(玉出)4ヶ寺・地蔵尊の解説板の設置 | | |
| だいがく | ○D V Dの放映・踊りと太鼓の実演及び体験をする場所の確保 | | |
| | ○バッジ・キーホルダー・ストラップ・クリアファイル等関連グッズの作成 | | |
| | ○A R化の取組 | ○だいがく保存会・だいがく音頭保存会との連携 | |
| 勝間凧 | ○凧の復元製作・展示 | ○指導者の育成 | ○製作体験場所の確保 |
| | ○碑の建立 | ○バッジ等関連グッズの作成 | ○勝間凧保存会との連携 |

参考文献：

本文中に掲載した文献の他、『日本歴史地理序説』藤岡謙二郎、『日本都市史研究』西川幸治、『寺内町の研究第3巻』峰岸純夫他、『河内萱振城』棚橋利光、『「伎人」の歴史・暮らし・まちの誇り』平野区役所他、『桑津郷土史』桑津郷土史研究会、『玉出のだいがく 生根神社だいがく祭り調査報告書』生根神社、『特集展示 大阪の凧』大阪歴史博物館、『日本の凧』新坂和男、『日本の凧』俵有作

アベノの坂10選 無名坂に名前をつける

辻本 伊織

【目的】

阿倍野区は天王寺区とならび、水の都とよばれる大阪には珍しく川も橋もない。それでは何が自然の観光資源かと考えると、当然『坂』が出てくるのではなかろうか。

有数の坂のまちである阿倍野区が、坂への関心が高いかというと決してそうは思えない。ここはぜひこの自然景観を宝の持ち腐れにしないためのアクションが必要であろうと考える。他都市を考察しても、東京・京都・神戸それぞれに坂のアピールに工夫を凝らしている。なんであれモノを生かすには名前が必要であり、重要である。名前があつてこそそれはイノチを持ってくる。坂だって名前がなければただ単に傾斜した道にすぎない。大阪の坂研究の手始めとして、阿倍野区にある無名坂・忘名坂に名前をつけて観光資源化の第一歩としたい、というのがこの研究の動機である。

【内容】

阿倍野区内の特徴ある坂（しかも無名坂・忘名坂・表示のない坂に限定して）を坂の選定基準に則り10選ぶ。そして、その坂にふさわしい名称をつける。

あくまで叩き台としての私的なベストテンである。この提案を元に地域住民あるいは観光者のみなさまにその名称が妥当かどうかを考えていただく。

We b・広報誌・地域観光マップで紹介する。コンテストを行ってもいい。神戸市における北野坂の例のように行政が住民投票を募り決定するのが理想型と考える。決まりは名称表示板、同時に由来・伝承などもわかれればそれを盛り込んだ説明板の設置。これはそれほどの費用を要さない。しかも、一度命名され、表示された坂はその後一人歩きしていくことになる。モノ自体は自然景観であるからまったく安価な観光資源活用と言えるのではなかろうか。

ここまで流れを一つのサイクルとして考えている。

【結果（今後の考察含む）】

この発表ならびに提案では無名坂のネーミングということに最も重点を置いた。しかし、フィールドワークを始めて見ると思った以上に良好な景観の坂が多い。今回割愛した無名坂もかなりある。もっと精査していけば50選は十分に達成できると考える。

『歴史と坂のまちアベノ』のイメージ造りにご賛同を頂ければ幸いである。

研究の動機

他都市（東京・京都・神戸など）と比べて 大阪の坂は観光資源としてあまり活用されていない。そんな中でも天王寺区は「天王寺七坂」などを整備して観光資源としている。同様に歴史と坂のまちである阿倍野区には残念ながらそういう動きがみられない。水の都でなくとも、坂という豊富な自然景観を観光資源として『歴史と坂のまちアベノ』を訴求したいと考える。

坂の定義

坂は道がついていて成立する（形状としては階段状も含む）

坂は自然の傾斜に人工の手が入ったモノが対象となる（よって単なる山や丘の斜面は除外）

人間が上り下り可能な傾斜角度（当然崖状・それに近いモノは除外）

坂10選の選定基準①

観光資源とするには名称がなくてはならない。よって今回の対象は 無名坂・忘名坂に限定する。阿倍野神社周辺の5坂（みや坂・やしろ坂・さくら坂・みどり坂・みなみ坂）、相生通の2坂（相生坂・相親坂）の7坂は標石があり素晴らしい坂ではあるが、今回の趣旨とはずれるので割愛した。名前は知られているが表示のない坂は、今名前が知られていてもそのままだとそう遠くない将来必ず忘れ去られる。それが証拠に、大正期の文献で大阪の坂が数多く書かれているものがあるが、その中で 現在特定できるものはごくわずかである。

坂10選の選定基準②

景観・展望のよいもの

形状に特色のあるもの

特定できる建物・樹木などがあるもの

由緒・伝承などがあるもの

選定までの経緯

以上に述べた選定基準①②に基づき、阿倍野区をフィールドワーク。（100近くの坂）

私の個人的尺度によりベストセレクション10坂を選定。

坂10選に名前をつける

名前がなくてはただの傾斜した道にすぎない。これは坂に限った話ではないが名前をつけること、名前があることによって

- ・ 親しみが湧く・印象が強くなる・覚えやすい・記憶に残る
- ・ 道の説明に役立つなど便利になる・地図、文献に引用される（ブログも含めて）
- ・ 観光資源・民俗資源として利用される
- ・ 何よりも後世に伝承される

などの効果が見込まれる。

坂 10 選の具体例

ここからは発表した10坂のうち5坂を具体例として掲載する。ページ数の関係で掲載できず割愛した5坂は次に候補名称と場所だけを記しておく。

- ③市大坂 大阪市立大学医学部と病院の間。南北の坂
- ④崖の上坂 飛田新地の東側。南北の坂
- ⑥聖愛坂 丸山通りにある大阪キリスト教学院を南に入る坂
- ⑧正圓寺坂 聖天山正圓寺の正面参道。階段坂である
- ⑨鞆の坂 帝塚山1丁目。西成区との区界にある

今後広く住民や観光者など、みなさまのご意見をもとに行政や地域組織に採用決定して頂きたい。その後表示板・説明板の設置を行い、同時にWeb・広報・観光マップなどに露出させてその名前と場所を認知していただければ幸いである。

①旭坂

旧旭通り商店街 キューズモール北横



あべのハルカスの西対面

旭通り商店街の頃はもう少し湾曲度が強かったが

今は阿倍野筋の接する起点からほぼ直線で続いている。

かなり改造・変形されたので原形はとどめていない。

坂の傾斜は旧旭通りの標石（写真）が保存されているところから次の通りにぶつかるまで。歩道と車道が区切られ舗装された、使い勝手のよい、新しくできた綺麗な坂である。

以前の旭通り商店街は『あべの銀座』とも呼ばれていた。

このあたりはかつてヤブでみかん山と呼ばれていたようだ。

他の候補名 あさひ坂 みかん坂 キューズ坂

②天龍坂

あべのマルシェ北側の坂



あさひ坂より西へ、突き当たりを南へ、

あべのポンテの横をまた西へ。

あべのマルシェのあたりから天龍大神の祠の地点まで続く坂。

坂を下りきった北側に天龍大神の祠がある（写真 鳥居）。

このあたりの低地には明治末期まで大池があり池の主として大蛇三神があがめられていた。そのひとつがこの天龍大神であり、あと黒龍大神と白龍大神がある。元は三神とも池の周りにあったのだが今は開発の影響でばらばらになり黒龍は大阪市大病院の西側、白龍は飛田会館内に移されている。黒龍大神の直近の坂は勾配も陥しく眺望もすばらしいが、これは西成区の章で触ることとする。

他の候補名 マルシェ坂

まるやまざか
⑤丸山坂

丸山通り西端の坂



『史跡丸山古墳跡』の標石（写真）のすぐ北から西成区界まで東西に続く坂道。

『史跡丸山古墳跡』の向かいにあるマンションは関西電力の元社長、太田垣士郎氏の別邸があった場所であろうか。閑静な住宅地を通る舗装された、変化に富んだ坂道である。

他の候補名 古墳坂

しょうてんさか
⑦聖天坂

阪堺電軌阪堺線 聖天坂駅の北側



今回のアベノの坂10選で唯一名前が特定されていた坂道。

天下茶屋教会とそばや春日が並ぶところから坂上の天心坊まで。そこから東へしばらく歩くと晴明丘小学校である。瀟洒な住宅地を通る、舗装が美しく長い東西の坂道である。しかし、標石・表示板などは無い。坂の名がなぜ特定されているかといふと、最大の理由は坂下にある阪堺電軌阪堺線の聖天坂駅（写真）であると考えられる。

当然坂が先にあっての駅名であるが、駅名表示があることによって長年ゆるぎなくこの坂名が伝わってきたことは間違いない。坂名のネーミングそして物理的な表示が重要であることの証とも言えるだろう。

くぼたさか
⑩久保田の坂

帝塚山1丁目 西成区との区界にある



この坂のすぐ近くに「⑨鞆の坂」がある。

かつてこの坂に沿った石垣の上にクボタ創業者、久保田権四郎の広大な屋敷が存在した。現在屋敷は晴明丘南小学校（写真）とマンションなっているが坂は健在。

標石などはないが近辺では「久保田の坂」と呼びならわされ、熟知された坂である。傾斜がきつく、石垣との調和が素晴らしい石畳の坂である。

他の候補名 久保田坂



大阪府立大学 21世紀科学研究機構とは・・・

大阪府立大学「21世紀科学研究機構」は、学部(学域)・研究科の枠を超えた学際的あるいは分野横断型研究を進める「21世紀科学研究所」群で構成する研究組織で、本学の研究活動の一層の活性化を図ることを目的として設立されました。

この機構は、柔軟性と組織性を併せ持つ3つの研究所群(2014年3月現在 41研究所)で構成し、地域に貢献する拠点大学としての役割と府民・府政のシンクタンク機能も担える組織として、本学の教育・研究の展開に新たな息吹を吹き込む存在として位置づけられています。

観光産業戦略研究所（所長：橋爪紳也教授）

経済成長が顕著なアジア全域において、観光が地域の重要な産業となりつつあります。LCCの普及や世界的なクルーズ事業の進展もあり、新たな旅のありかたが示されつつあります。いっぽうで、ヘルス・ツーリズム、コミュニティ・ツーリズム、ヘリテイジ・ツーリズム、ボランティア・ツーリズム、美食ツーリズムなど、いわゆるニューツーリズムの動向も注目されています。また世界的な統合型リゾートの流行やコンベンションビジネスの発展、ハイエンド層を対象とした事業展開など、観光客の受け入れを前提とした地域づくりや都市開発が各地ですすめられています。観光産業戦略研究所では、このような世界の動向を見据えつつ「人が自由に移動する社会」を肯定、観光学の理論的研究の深化とともに、都市型観光に関する政策提案と地域づくりの実践を重ねています。

なにわなんでも大阪検定について

なにわなんでも大阪検定は、大阪が持つ歴史・文化の奥深さを再発見し、多様な大阪の魅力を知っていただくことを目的とした試験です。検定試験に関連し、歴史や文化に直接触れるまち歩きや講座などを開催し、楽しみながら大阪を学んでいただくことができます。

大阪府立大学 21世紀科学研究機構大阪検定客員研究員制度は、この大阪検定の最難関である1級に合格された方の知見を大阪の都市魅力向上に役立ててもらうため、大阪府立大学との提携により平成25年度より創設され、13名の研究員が担当教官である橋爪紳也教授（大阪府立大学 21世紀科学研究機構・観光産業戦略研究所所長）の助言を得ながら「大阪の観光」および「大阪の観光産業」に資する研究に1年間取り組んでまいりました。

大阪商工会議所は、今年度の研究をより広く社会に還元し、「大阪の観光」および「大阪の観光産業」の一層の魅力向上に努めてまいります。また、学校での授業や企業・団体の研修等の機会を活用し、大阪検定合格者を講師にした大阪に関する講座・セミナーの開催を支援いたします。講師のご紹介などご関心の方は下記問合せまでご一報ください。

大阪商工会議所は、“なにわなんでも大阪検定”を通じて、大阪を知り愛する運動を推進し、大阪の都市ブランド向上を目指します。

問合せ：大阪商工会議所地域振興部

〒540-0029

大阪市中央区本町橋2番8号

TEL 06-6944-6323

<http://www.osaka-kentei.jp/>

